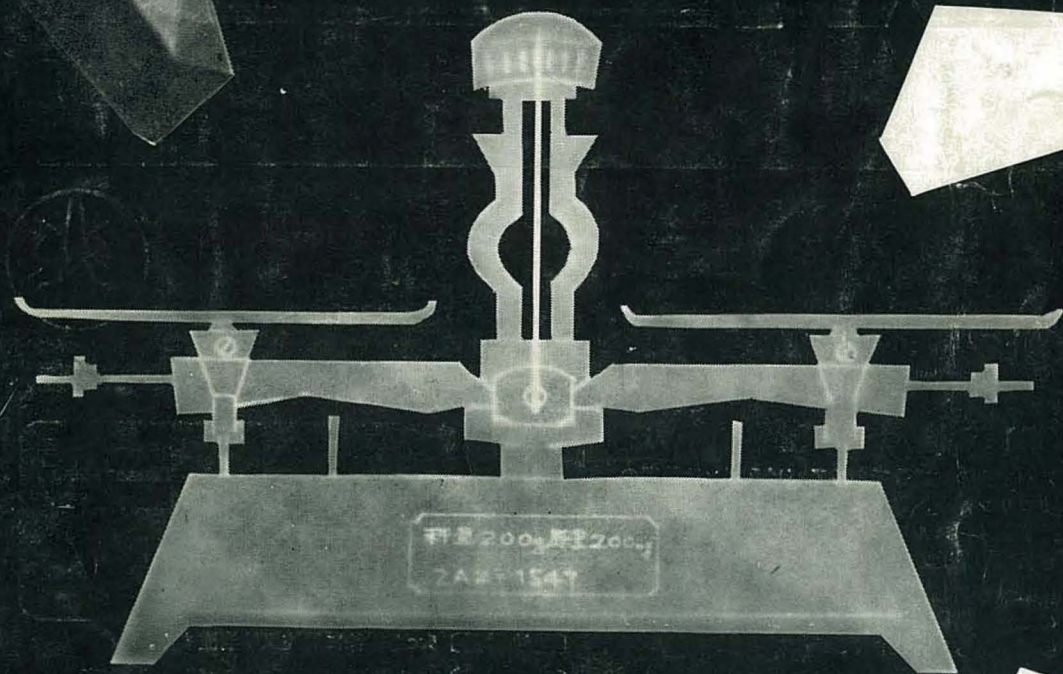


あみ二す



4

東北大学医学部薬学科

目 次

巻 頭 言 思考と実験	薬学科主任教授 岡野定輔	1
ケクレの夢	薬学科教授 小澤光	3
特集 東北大学薬学科の経緯と現況		4

【教室紹介】

衛生化学教室	薬学科助手 黒岩幸雄	6
薬品製造学教室	// 教授 亀谷哲治	6
生物薬品化学教室	// 助教授 ヒキノヒロシ	7
薬剤学教室	// // 池田憲	8
薬品作用学教室	// // 福田英臣	8
薬品分析化学教室	// // 岩口孝雄	9
薬化学教室	// // 山中宏	10

【特別実習紹介】

衛生化学教室, 薬品作用学教室, 薬剤学教室, 薬品製造学教室, 生物薬品化学 教室, 薬品分析化学教室, 薬化学教室		12
--	--	----

占守の一日 —二十年前の採集旅行記—	薬学科教授 竹本常松	16
二つの夢	教養部助手 加藤皓一	17
液体亜硫酸中での acetoxime の反応について	庄司堅次郎	18
// におい// について	高石勝夫	19
自由と責任と限界	村田正弘	20
故郷		22
登山旅行		25
趣味のない男	東北地区麻薬取締官事務所所長 朝倉義臣	30
ずいひつ		31 ~ 40
薬学科一年の経過 (昭和35年度)		41
東北大学医学部薬学科職員学生名簿		42
編集後記		48
表紙構成	村田正弘	

ケクレの夢

小澤光

ベンゼンの化学構造式が六角であることを提唱した Kekulé はそのときのもようをこう語っている。

「私の仕事部屋は狭い路地に面していて日中は光が全く入りませんでした。ある夜はその部屋で教科書の著述をやっておりましたが、仕事があまくはかどりませんでした。心が別のところにうつるので。私はイスをストーブの方に回わしてウタタネをしました。すると私の目の前には原子が目まぐるしくうごいていました。その中でヘビが1匹自分のシッポをくわえてあざわらう旋回しているのです。私はまるで電光にうたれたように目がさめました。やっとベンゼンのナゾがとけた。C₆H₆ は6炭素原子が閉環しているのだと始めて気づきました。」

こうして現在の物理的方法でも確認されたベンゼンの亀の甲は、1865年ベルギーに在任中のケクレによって発見されたが、彼は後進にむかってこう教えている。

「諸君ノ夢みることを学び給え。やがて真理をみいだすであろう」と。

いずれにしろ研究のヒントが夢のなかで得られたことは興味ふかい。私は偉大なる発見はこうしたちよとしたヒントがもとで完成されるものと信じた。

しかしこの頃の米国などのゆき方をみるとヒントより物量作戦という感じがしてならない。例えばガンの薬を発見するためには、多くの化学者が多数の化合物を暗中摸索で合成する。出来上がった化合物に製品番号を付して生物学者に渡す。生物学者はどんな化合物か知らずに効力検査を行う。いわばスクリーニングテストが行われるのである。

こうして何千〜何万の化合物の中から有効なものが見出される。指導者たちの会議で始めてどんな構造の化合物が効くかが明らかにされる。

この方法はたしかに主観が入らないので合理的かもしれない。しかしめくらめつぼうにやっている研究者にはこんなつまらないことはないだろうし、また相当にムダが多いことだろう。「沙漠から砂金をさがすようなものだ」と評される抗生物質のスクリーニングテストもこの類であろう。

ところが幸か不幸か貧乏国日本は、少なくとも大学ではこんなやり方は行われていない。やろうと思っても無理なのであろう。おかげでわれわれは研究を充分楽しむことができる。

ヒントを得られたうれしさ、またこれをもととして仕事をすすめる楽しさは、またかく別だからである。

自分のことを申していささか恐縮だが、ヒントが私のささやかな研究に役立った体験をふりかえってみよう。

結核薬のイソニコチン酸ヒドラジッド (INAH) が発見

されて間もなく、私は INAH が生体内でどう変化するだろうかを追求してみることにした。

ちょうどその頃、私どもは Baldwin の Dynamic aspect of Biochemistry のゼミナールをやっていた。私は何とかして例のクレープスのサイクルを記憶しようと心がけていた。構造式で順に追っていてもよいのだが、なかなか手まどる。そこで Chain-method の記憶法を応用することとおぼえやすい形にウタによみこむことにした。苦心のすえ、デッチ上げたおぼえ方は次のように暗記することであった。

「クレープスはアセト・オキザル・クエンサン・アコニ・イソ・オキ・ケトグルサン・コハク・フマレル・リンゴサン」というのである。

賢明な学生諸君はどれがサイクルの中の何に対応するかはよくおわかりだろうと思う。これなら2〜3度くり返せば忘れることはないだろう。

こんな念仏のような暗記法を得意になって研究室の同僚に話し合っているうちに、INAHの問題がおこった。この両者が結びついたとしてもこれは偶然ではない。私はたちまち INAH がクレープスのサイクルの中のピルビン酸や α -ケトグルタル酸やケト酸と Schiff 塩基をつくるであろうと思いついた。実験の結果ははたしてその通りであった。

この結果はいちはやく学会誌に発表した、1年おくれでイタリーの研究者も同じ実験をして同じ結論に達したので自信を得た。

私どもの仕事はさらに進展して出来た Schiff 塩基、特に INAH とピルビン酸との結合物は毒性がきわめて弱く、しかも効力が低下しないことから大量投与可能な INAH の改良品として製品化されることになった。

またこのような化合物はペーパークロマトの R_f 値でも分離する幾何異性体をつくることも明かになった。

更に毒性低下の原因も生化学的に解明出来るに至った。すなわち、結合物はビタミン B₆ 欠乏症をおこさないので副作用が少いことを明らかにした。

このようにつぎつぎと派生的な問題がいもづる式にあらわれた。私にとってはその研究の意義よりも、むしろ論理的に進展していった過程がうれしく、また頭のトレーニングに役立ち、全く楽しい仕事になった。

それというのクレープスのサイクルを憶えようという幼稚な努力がヒントとなってこんな結果になったのだから全く面白いものである。

「//いくたびかここに真昼の夢みたる//」

これは「樽牛瞑想の松」のもとにきざまれた句であるが、私もここ静かな学都仙台において「ケクレ夢」ならぬ//真昼の夢をみる//幸福を諸君とともに味わいたいものと思う。

(教授 薬品作用学)

特集



東北大学薬学科の経緯と現況

東北大学医学部薬学科が発足以来4年経過した。32年新設された時は全国薬系大学の文字通りの新入生で、若さと清新さは現在も依然みなぎっていると自負しているが、年月の立つのは早いものでその後東京理科大学薬学部他更に若い大学も生れた。

初期の目標である7教室もそろい、学生も全学年在籍し形の上でやっと一応整い、今から講座の内容を拡充させる発展期を迎えるわけであるが、ここに現在までの経過の概略を振り返り、現況を併せ紹介することにする。

32年度新設というが、詳しくいうならば復活が妥当かもしれない。というのは本大学医学部が医専であった頃は薬学科も併設されており、前附属病院薬局長高瀬豊吉氏は大先輩にあたる。然し薬学科は医学部昇格の際廃止となって久しく、戦後学制改革の際にもそのままとなっていた。戦後の医学、薬学の発展は目覚しく東北大学も総合大学として形の上でなく実質的に薬学科の創設の希望が起り、特に提携の必要ある医学部がその中心となったのも当然であった。黒川総長、武藤学部長、黒屋名誉教授(当時医学部長)はじめ関係者の努力が実って32年度に文部省の認可を得たのである。時期がややおくれた関係で、32年度は国立一期の3月の入試に間にあわず、4月半ばに入学試験を行った。現在の4年生の出身地が全国に亘っており、競争率も16倍強という異常さを印したのも偶然ばかりとはいえないのである。勿論この頃は薬学科が設置されたというだけで専門の教授はおろか建物にもなく学生が教養部にいたに過ぎなかった。夏を過ぎてやっと東京大学から分析化学の一色教授が現助教授岩口先生と二人で準備のため着任した。1回生は新設ときいて期待したもの何も先のことがわからないので、一色教授、黒屋教授等を囲んで江陽会館で話し合いを行ったのが12月である。年が明けると24ページの小冊子「あみこす」の創刊号も発刊された。然し1回生の熱意に反して全く不幸なことがおこった。

33年4月14日東北大学工学部土木工学科からの出火により、薬学科専門課程が使用予定だった校舎は焼失してしまったのである。不幸は更に輪をかけて、この報に急ぎ名古屋の学会から帰仙途中の一色教授は15日早朝東北本線伊達駅で心臓麻痺にり死去されたのである。火災が死因に関係がなかったとはいいい切れない全く思いもかけない事故だった。新設1年の大学の建物が失くなり、たった1人の教授を失ったのだから全く途方に暮れてしまった。学生が動揺したのも止むを得ない。前途に不安を感じて転校準備をはじめた人も多かった。然しこの時1回生の無茶苦茶な努力がはじまった。当時の事情は「あみこす」2号に詳しいから省略するが4年生のQ君はこういっている。「今、2号を読むと笑い事で無茶だったと思うよ、でも笑い事じやなかった。あれで校舎が建ったなんて思わない、ただ教職員も1人もいない学科が他の人達の手で動かされるような気がして学生として口惜しかったんだな、自分のためにやったのだけれど古臭い言葉で嫌だけど愛校心だったかもしれない」。富沢移転を阻止のため学生の代表は医学部はじめ学内の諸教授を1人1人廻り、東京へ出かけ文部省から衆参両院まで歩を運んだ。そのうち新潟大学から岡崎教授が着任され、一時中絶していた教室の充実も再び軌道に乗りはじめてきた。武藤教授、現理学部部長藤瀬教授他いろいろの間骨折って下さった諸先生に今一度感謝したい亦東京大学薬学部の諸教授は東北大学薬学科の新設にあたってとりわけ尽力されたが、現東京医科歯科大学教授秋谷博士、現東京大学薬学部長石館教授の名は永久に忘れることができない。

33年後期から1回生に1週1度の専門課程がはじまった講座の未整備状態で満足なことは出来なかったが、岡野教授、岡崎教授、医学部の教授の特別講義がはじまった。35年になるとアメリカから留学を終えて帰国されたばかりの加藤教授の薬化学の講義がはじまった。4月からは助教授

助手等教室員の数も増え、薬品製造学の亀谷教授、衛生化学の奥井教授と講座も5講座となった。

この辺で学生の活動状況を伝えてみよう、教養の2年を校舎建設運動までした1回生は、無理を知らながら34年5月に行われた医学祭に参加した。医学科の学生が専門の4年生を中心に豊富な人数と1年の準備をしたのに比し、薬学科は3年生といっても専門になってわずか1ヶ月だった。この年1・2回生を中心に親睦機関薬友会が発足し、第1回の総会は4月日乃出会館ホールで行った。

待望の校舎の新築も関係者の努力で割合早く実行され、34年夏過ぎると工事がはじまったが、全然専属の建物のない悲しさは34年冬1回生の衛生実習の頃頂点だった。借用中の医化学実験室を返還し、病理を借用したが、第一ここはガスも水道も殆ど出ない。更に悪いことに床が木造のため引火の恐れのある実験が不可能だった。指導する衛生教室は遠い生理学に仮居しており、内山助教授は渡米中で、アメリカから帰国されたばかりの奥井教授と鈴木助手だけで人数も少く連絡もとれぬ有様で、学生は降りしきる雪の中をガラス器具を洗いに教室までいき、手を暖めてまた火の気のない実習室に戻って実験をつづけた。35年4月このときは苦しかった創設期が一応終り、春を迎えた時だといえよう、工事関係のおくれて新校舎の実験室はすぐ使えなかったが、新に生物薬品化学の竹本教授、薬品作用学の小沢教授が着任し、講座数は初期の目標7が全てそろった。6月には新校舎へ、分析、薬品作用、衛生が移転し、薬学科の中心が出来た。2つの実習室の完成はようやく3、4年生を間借の窮屈さから解放した。他に図書室、会議室、測定関係の室もできた。更に7月第二期工事が再開された。現在第二期工事はほぼ完成し、新に薬化、薬工、生薬の移転も近い、そうなれば8月からはじまっている4年の特別実習のうち薬工など教室と実験室が離れて苦労しているところも楽になる。

何事も創設期は苦しいという。その本当の甘さ苦しさを知った4年生は卒業を控えている。夏は修学旅行を兼ねて工場見学旅行で大阪、神戸まで出かけた。3年生は今年度の大学祭に初参加した。

就職状況も一応好調で全員内定済みである。来年度から発足する大学院へも15名の進学が内定して、就職傾向の強い現在の理科系学生の中でちょっと異様な感さえる。

内部の充実も着々進んでいる。赤外線吸収スペクトル装置は11月到着し、恒温恒湿装置も運転している。紫外可視部測定装置、元素分析室も活動している。赤外装置が着いた日、20人もの学生でこれがかついで運んだ。その時1人の学生がつぶやいた。「重えーなあ、薬学もこんな重い機械を買いやがって」皆どっと笑った、が笑いながら2年前のあの苦しかった当時の事を思い出して感無量の思いがした。

薬学の完成はこれからである。今から建物、装置を使っ

て世界の科学の一端で少しでも貢献しなければならない。4年目にあたって、今まで東北大学の薬学科に寄せられた数々の内外の暖い言葉、好意に感謝し一層の鞭撻を望む次第である。

× × × × × ×

ここに7講座がそろったのを機会に、全7教室の紹介を特集として以下に掲げる。

又4年生は7月1日より各教室に所属し特別実習を行っている。本年は東京・関西方面への見学旅行の為、旅行終了後直ちに夏休みに入ったが、各教室とも夏休みを一部返上し、早いところでは8月初旬、遅いところでも8月中旬過ぎより、特別実習を始めた模様である。各教室配属学生にその実習テーマなどについての紹介を求め、併せて特集とした。3年生以下の諸君には特別実習に於ける教室選択の上に何らかの参考となれば幸である。

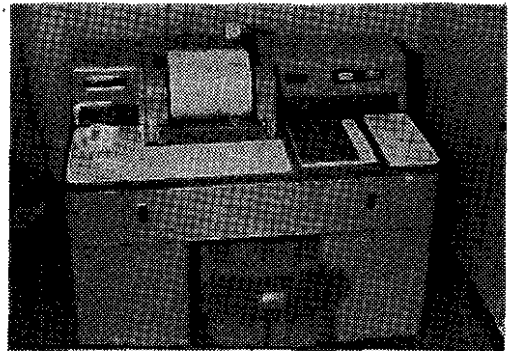
尚本年の各教室配属学生数は下記の通りである。

衛生化学教室……………6名	薬品作用学教室……………5名
薬剤学教室……………4名	薬品製造学教室……………9名
生物薬品化学教室………3名	薬品分析化学教室………4名
薬化学教室……………8名	

カット写真は薬学科新館、下の写真は赤外線吸収スペクトル装置

撮影 高橋成夫

(編集部)



教 室 紹 介

衛 生 化 学 教 室

教授 奥井 誠一

大正12年生。昭和19年東大医学部薬学科衛生裁判化学教室の卒業。糖化学を主に研究してきたが、学位論文のテーマも糖の過ヨード酸化である。終戦後農薬を薬学教育にいち早く導入したのも功績の一つである。昨年までイリノイ大学に留学していた。

助教授 内山 充

薬物がどの様に吸収、分布、排泄されるか、その状況や代謝経路、酵素との関係を究明することは、薬物の代謝機構を明らかにし副作用や習慣性のない優れた薬を創出する基礎的知見を得るものである。又裁判化学上の見地から、用いられた毒物の鑑定にあたって、その代謝状況が明確でなければ正確な判定は出来ない。更に中毒時にあたって

薬 品 製 造 学 教 室

教授 亀谷 哲治

昭和16年浦和高校卒、昭和18年9月東大薬学科卒、昭和20年東京薬専教授、昭和26年阪大助教授、昭和34年東北大学教授、昭和31年イスラエルに1年留学後、欧米視察、薬博

助教授 高野 誠一

昭和28年東大薬学科卒、昭和33年東大大学院卒、昭和35年7月よりアメリカ、ニューメキシコ大学に留学中、薬博

主な研究テーマ

1 複素環式化合物の合成研究

主としてロツンジン、クラリン、パペリンそのほかイソキノリン骨格を有する化合物の合成、さらにフラン、チオフェン、インドール、ピリジンなどの医薬品として有用な化合物の合成。

2 抗ガン剤の研究

主として含硫化合物のオキソド類を合成し、その抗ガン作用を検討する。酸素を容易に放出しうるような化合物の抗ガン性に興味を有し、研究が行われている。

3 そのほか

ポリエステル合成研究、簡単な化合物の工業的応用に関する研究。

当教室の研究はあくまで合成化学の基礎的研究を行うが

も作用機構が不明であれば、適切な処置を講じえない。

この広範多岐に亘る生体反応の一つとしての解毒機構の研究は、生化学上も興味ふかいものである。私達はこの様な見地から、薬物の代謝と生体内酸化還元反応について研究を行なっている。

動物細胞には、ミトコンドリアやミクロゾームとよばれる小粒子分割部分が存在するが、特にミトコンドリアの中では生命に必要なエネルギーが出来るものと考えられている。この中には近年、電子伝達系と呼ばれる酵素の集団が存在し、細胞呼吸研究の最も重要な部分をしめ、チトクロム C, G₁, b, a, などの酵素が単離、精製され、その順序もほぼわかって来た。しかし最近この伝達体の他に脂溶性の因子が重要な役割を果していることが明らかにされて来た。ミトコンドリアには、かなりのリピッドが含まれており、この系に作用する因子が何であるかは、レスターなどによって研究され、Co-Enzyme-Qであることがわかった。この様に電子伝達系と脂溶性因子が密接に関係していることがわかり、他の因子も関係している可能性がある。

更にミクロゾームの中では、異物を酵素と TPNH の存在で非特異的に酸化する酵素が存在する。この酵素の作用機構は未だ不明であるが、この機構の究明は、薬物の中毒や耐性、その他内分泌なども関係し興味深いものである。
(黒岩幸雄 助手)

薬品製造化学の見地より直接工業化と関連ある合成をも念頭において研究を行ってみたいと思っている。とくに最近の石油化学を始めとする化学工業の発達にふさわしい講義に重点をおいている。

教室内では留学中の高野助教授、大阪大学にて共に研究してきた野村助手、福本助手をはじめとして研究補助員の佐藤由美子、飯豊トクの両学士が中心となって和気アイアイとして研究を行っており、春秋2回の旅行など気持のよい雰囲気を作っているものと信ずる。さらに今夏9人の特別実習生が入室して来たので大変にぎやかである。ビールをのませるとタルー本では不足というゴウの者ばかり集った次第ですが、就職は各人の努力によって8月末にはほとんど決定というような成績でした。しかし目下応用生理教室に間借りのため教室は全くせまく、学生諸君は4年の実習室に一時いれて頂いている。しかし目下新研究室が建築中で来年の初めには全員まとまるのではないかと今から楽しみにしている。
(亀谷哲治 教授)

生物薬品化学教室

教授 竹本 常松

助教授 ヒキノ ヒロシ

今年の4月上旬、私たちがはるばるこの仙台の地に着いた日は粉雪が蔵王おろしに舞う本当に寒い日でした。それから木の芽がふいて、花が咲いて、実がなって、そして葉もすっかりもみじして、あちこちに雪だよりのきかれる今日此頃、東北大学の薬学科に私たちの教室が生まれてからもう半年も経ちました。しかし人でいうと半年などではまだ齢のうちにも入らないくらいですから、みなさんに自慢できるようなことはまだ何もできていませんが、以下私たちの教室のあれこれを紹介してみたいと思います。

まず生物薬品化学教室ではどんなことをするのかということになるわけですが、この講座名は他の大学ではすべて生薬学教室と呼ばれているようです。生薬学といえば現在の薬学の母体となった最も古い伝統を誇る学問でありその講座名も我が国で薬学教育が始まって以来の由緒ある名前です、その扱う研究の内容は学問の発達につれて幾多の変遷を経てきております。そして今日もその一つの大きな転換期に立っているといてよいのではないかと思います。この時期に当って創設された東北大学薬学科では看板も新しく生物薬品化学講座と塗りかえて、今までの生薬学のもつよき伝統をいかなる方向に発展させてゆくべきか？これは今後私たちに托された大きな課題となるわけです。当面の目標としては、天然物から新しい物質をとり出して、これを医薬品として提供し、デッカク言えば人類に貢献したいということに主力をそそいでいます。天然物成分は未知の薬用資源を発見するという面でも、また構造化学的な研究の面でも無尽蔵の宝庫ということができ、その研究に当っては有効成分の抽出や薬効学的なスクリーニングからその構造決定に至るまで、単に化学的な方法だけではなく自然科学のあらゆる手段を駆使して、世界中の学者と協力し、またあるときにはしのぎをけずって競走しなければなりません。私たちの教室で受持っている講義のうち私のおおせっかっている薬用植物学および生薬学はそれらへの礎石となるものですし、竹本先生の担当されている植物化学はそれらへのガイダンスということになるわけです。

わが教室のボス竹本先生は今年の3月まで大阪大学薬学部教授として永年植物成分の研究に専念され、その業績は日本薬学会賞をはじめ数多くの受賞によって周知のところ、その博学多識さには不勉強な私たち教室員にとっては恐畏のタネ。しかし一口で評するとすればナカナカ話せるオヤジと言ったところですか。現在手がけられておられる主なテーマを列記してみますと、海藻類にふくまれている特異なアミノ酸類、いろいろな植物の精油成分、キク科植

物の特殊成分、ツツジ科植物の有毒成分 etc.,etc.の研究があり、これらはいずれも大阪大学時代から引続いてのものです、それぞれかなり進んだ段階にきております。さてかく申す私は、竹本先生を補佐すべくやはり大阪大学薬学部から、先生共々トレードされて参りました。来てみて一番面くらったのはやはり不意に命じられた講義に止めをさしましょう。実に難かしいものだとつくづく感じました。しかし、阪大時代、人並みはずれて大阪弁が上手との折紙つきだった私が、こちらの講義では打って変わったようなスタンダード日本語との評あり、一度阪大生にも聞かせてやりたい。余談はさておき、助手の近藤（嘉）君は薬学界有数の理論家で、ハリキリボーイ横部君と共にいずれ劣らぬフアイトマン、大阪大学からの移転完了と同時に研究活動に専心せよとのボスの厳命を即日実行に移した豪の者たちで、当教室運営の中心となっています。以上に加えるに富森君と近藤（一）女史が研究補助としてひかえており、奇しくもオールスタッフが大阪からの遠来となってしまいました。が、みんな一度志を立ててこの仙台へ来たからには、これからは東北大学の人間として東北大学薬学科の名誉のために、みなさんと共に最善の努力を尽したいと考えています。

しかし人間は環境の動物ですから、現状のように化学実験を危険な木造の研究室でおっかなびっくりやっていたのでは良い実験もできるはずがありませんし、ひいては良い考えも浮んでできません。さいわい間もなく薬学科新館の第2期工事事も完成の運びとなり、そうなると私たちの教室もその3階に居を移すことになっておりますが、そのときにはいろいろな設備を充実させて、いよいよ本格的な研究活動を開始する計画をしています。またそのときこそわが薬学科にとっても意義深い転換期となるのではないのでしょうか。みなさん、一つ大いに努力して四国の学界に追いつき追いついて、良き伝統を築こうではありませんか。

(ヒキノヒロシ 助教授)

成瀬科学器械株式会社

本社 仙台市国分町125
工場 電話 ③-3246・8482
東京 東京都新宿区西大久保1の370
営業所 栄ビル 電話 (341) 6271 ~ 3

薬 劑 学 教 室

教授 岡崎 寛 蔵

東大薬学科卒、新潟大学医学部教授兼同附属病院薬局長を経て、現在東北大学附属病院薬局長兼任

助教授 池田 憲

東大薬学科卒

薬劑学教室は薬学科の諸講座の中でも薬の実際面と最も深いつながりをもつ教室である。他の総合大学におけると同様、教授は附属病院の薬局長と兼任である。医学における基礎と臨床との別と似ているといえようか。

抄読会やリクリエーションの旅行なども薬局の人達と一緒にやっている。したがって教室の雰囲気も他とは違った所がおのずから出て来よう。ここで未来形を使ったのは教室の空気といっても、最初の四年生が入ったばかりで、まだ独特のカラーが出来上ってはいないからである。教室の空気は何といっても大学院とか四年生のエネルギーに満ちた連中を中心にかもし出されるのであると思う。

それでも現在すでに特色あることといえば、教室全員麻雀をやることであろう。四年生が教室に初めて来たときも麻雀大会をもって迎えられた。勿論教授が一番強い。勇将の下弱卒なしで、本教室に居る間に腕もぐんと伸びよう。ただし特別実習のテーマに「麻雀牌組合せの配合禁忌」といったものは出ない。

研究テーマは消化酵素剤、注射溶媒の研究などである。薬劑学はその性質上研究の守備範囲が極めて広い。またテーマも実際問題から出発し、成果は再び実際製剤の進歩に帰って来るものでなければならぬ。応用科学である薬学としては当然である。しかしこのことは言うべくして大変

薬 品 作 用 学 教 室

教授 小澤 光

1914年岐阜県に生まれ、初等教育を埼玉県で受け、東大において薬学を学び、菅沢重彦教授の下で薬品製造学を専攻した。1939年卒業後、岡山医大で奥島教授の下で薬理学の手ほどきを受け、後東大薬理学教室に転じ、田村憲造、東竜太郎、小林芳人、熊谷洋教授のもとで薬理学を研さんした。更に医学知識の必要を痛感し、東京医大において医学を習得して医師となったが、自分としては医学はあくまでアクセサリーのつもりで薬学を本業と心えている。

職歴としては教師稼業の他に、薬局長の経験と製薬会社において研究及び企画に従事した。いずれも今から考えると経験として楽しく有意義であったと思っている。

助教授 福田 英 臣

1928年東京都に生まれ、1952年東大医学部薬学科卒業後、大学院前期(旧制)を臓器薬品化学教室(後に生理化学教室と薬品作用学教室に分れる)に学ぶ。製薬会社の研究

難しいことである。ある限られた研究範囲に閉じこもって、その領域で慣用される実験方法のみにより実用面とは一応離れた研究のための研究をやる方がある意味では楽である。薬局や製剤工場で起る問題は一見簡単なことが多いかも知れない。しかしその解答なり説明なりを科学的に行うことは容易でないものが多い。丁度無邪気な子供の質問の中にまともに答えるには大変なものがあるのと同様である。単なる化学的知識だけでは片付かない。純粋に物理学的な問題もあるし、対象とする物質が物質だけに医学的な知識も必要である。巾の広い知識が必要である。雑学であると言われるゆえんであるが、これは宿命である。個々の狭い専門分野の科学を広く横に連関をもたせて、実際問題の解決を計るところに特長があり、存在理由がある。

このようなわけで薬劑学に特有の機械といえは病院薬局の製剤室とか、製薬会社の製剤工場にあるようなものである。本来なら薬学科に附属の製剤工場でもあって、これらの機械器具が揃っているべきものであろう。しかし現在ではそこまで認識が徹底していない。このことは日本中の薬学科や薬科大学でも同様である。ことに国立大学では従来から薬の実際面と関係ある事柄は重く見られず、アカデミックな理学部でやるような研究が尊重されて来た。薬劑学という講座ができたのもせいぜい十年前前であるから無理からぬことである。したがって薬剤機械は薬局のものを説明する程度にとどまっている。ただし本医学部附属病院は目下改築を計画中である。現在の薬局はバラック住いで十分な設備を持つことはできない状態にある。その代り今どき一寸他所では見られない薬劑学史的に興味ある器具や装置もある。しかし改築の際には全国一の設備のどこのつたものにしたと岡崎教授も抱負を持っておられるから、そのときに期待したい。(池田 憲 助教授)

所勤務をへて、再び東大薬品作用学教室で熊谷洋、高木敬次郎教授の下で研究し、同時に日大薬学科で小澤教授の下で講師を勤めた。

有機化学を中心に発達し貢献してきた薬学にも、近年薬理学、生化学などの新しい分野が発展してきている。薬物の作用を究明し、優れた医薬品を生み出そうとするのが薬品作用学の目的である。過去の医薬品の発展の歴史を見ると、天然物の構造決定より出発して、類似化合物を合成し、化学構造と薬理作用の関係を調べ、強力で副作用の少ない新化合物を地道に求めてゆく場合が多い。従来の薬学の優れた合成などの研究分野に加うるに、薬物の効力、副作用などを客観的に研究する薬品作用学の分野があつて、はじめて優秀な薬が生れるものと信ずる。わが国における「薬学の薬理学」(薬品作用学)の歴史は浅く、すべては将来のものである。そこで、我々は学問的野心をもって輝しい伝統をもつ東北大医学部の中の薬品作用学教室として常に新鮮な気持で研究して行くつもりである。

鎮痙薬を夢みて合成されたドラランチン(ペチジン)は、

これの薬理作用を調べた薬理学者によるモルヒネ特有のハッカネズミ挙尾反応の発見によって、強力な鎮痛作用が認められ、ために現在鎮痛薬として用いられている、又アヘンアルカロイドのナルコチン（ノスカピン）が鎮咳薬として有力であることがわかったのも最近のことである。これらのことなどは、理屈抜きでまじめに観察することや、過去の常識にとらわれないことが大切であることを教えてくれ、限りない希望と夢を与えてくれるものである。

現在の教室のテーマは(1)薬理学的研究と(2)生化学的研究に大別される。(1)では、現在臨床的にも、構造活性相関でも関心のもたれる筋弛緩薬の研究、鎮痛、鎮咳薬の研究、各種薬物の生物試験法の改良などである。又向精神薬であるモノアミンオキシダーゼ阻害薬の研究も行っている。いずれも従来の薬物でなく、新化合物を教室で合成し薬理作用を求めているのであって、今後薬物の立体構造と薬理作用との関係にも進んでいくつもりである。(2)では、最近問題となっているコエンザイムQの研究と、イソニアジッド(INAH)誘導体の研究を行っている。いずれも研究に入ってから日が浅く、その成果は今後の我々の努力にかか

薬品分析化学教室

教授 岡野定輔
助教授 岩口孝雄

分析化学はあらゆる化学の基礎であるといっても過言ではない。化学の実験をすると必ず分離、確認定量という過程がつきもので、分析を知らない人は化学することは出来ない。従って諸君が専門課程に進んで最初に行う実験が分析などで2ヶ月を費し分析化学の1部門を行うわけであるが、与えられた検体の分析操作を通じて分析化学的な考え方を把握してもらえばよいわけである。ここ数年間に分析化学も大いに進歩をとげ従来の重量分析、容量分析、比色分析、分離分析、に更に新たな機器分析最近は放射化学分析も盛んになり、構成成分を定性定量するという静的分析法の他に連続的に変化する化学量（又はそれに比例する量）を各瞬間ごとにつかまえる動的分析法が充足し測定機械器具類の自動精密微量化と共に微量分析化学の進歩はめざましいものがある。薬品分析化学も医薬品の分析のみでなく更に広く複雑な構造や現象をあらゆる物質をあらゆる分析法を充分活用して追求して行かねばならない。現在薬品分析化学教室は岡野教授以下教員5名（中女性2名）特別実習学生4名（中女性1名）の小世帯ではあるが、薬学科新館の一階と二階に4研究室を有し研究に必要な設備は徐々に整えられつつある。岡野教授は東大薬学科薬品分析化学教室（石館研究室）の出身で以前は熊本大学薬学部にて薬剤学の研究をされていたが、岡崎教授に続いて本学薬品分析化学講座の教授として転任された。先生の専門は分析化学ではあるが、学位論文の化学療法剤に関する

ている。

研究設備は本年4月からの教室でもあり、充分とはいえない。年々充実して行きたいものである。研究に設備の充実が必要なのは当然であるが、優れた研究が必ずしも行き届いた機関で行えるとは限らない。ぜいたくは出来ないが、現在のテーマを行ってゆくのには不便は感じていないのが現状である。当然のこと乍ら、公私の別を明かにし、秩序を守ることを教室内の規約としている。

教室員は卒業実習学生を含めて、気の付いた点、改良すべき点はどしどし云ってゆきたい。学生の強い希望により毎週一回のゼミナールを始めた。

卒業実習生は本年は5名で、皆意欲的に実験に専念しつつある。学生が教室に入って感じたことであるが、粘り強く、じっくりとやるのが東北大学生の特長であろうか、その点はそのまま教室の気風ともしたいと思う。

助手は浅見行一君、高仲正君、研究補助は北村百合子さんである。いずれも若いファイトマン（及びファイトウーマン）である。

（福田英臣 助教授）

研究からみても、前々から生化学研究に興味をもち現在も生命現象に最も関係の深い物質である核酸(RNAとDNA)をとりあげいろいろの方面から研究を行おうとしている。まずその構造と生化学的現象との関聯を追求するためには Polynucleotide 自身の研究も勿論必要であるが、それより構造の簡単な Oligonucleotide を Mononucleotide からの合成と逆に Polynucleotide からの分解の両方法からつかまえ、その生化学的機能を研究し、より Polymer へと進めて行くことが核酸の構造と機能を明らかにするためには重要な手段である。核酸類の合成法は通常の有機化学的合成法に加えて酵素化学的合成法も重要であり、反応温度は常温又は低温で行うものが多く、反応自身より未反応の原料や数種の生成混合物中から目的物質の分離が重要な部門をしめるイオン交換樹脂電気泳動、クロマトグラフィ一等の分離分析法を有用物質を分離精製して行かねばならず、ここに於ても分析化学の重要性が再認識されるわけである。一方、Polynucleotide の分解には粘度、pH、紫外線 ($\lambda 260\text{m}\mu$) 吸収が著るしい連続的変化を示すので、分解過程の物理化学的研究には従来の UVspectrophotometer と pHmeter との連動装置が必須なものとなり分析機器の改良がなされねばならず、機器分析の重要性がうなずけるであろう。核酸はこのように化学全般に関係あるのみならず、いや現在科学のめざましい進歩といえども未だにその本体は何であるか全く不明の癌にも、密接な関係を有しているのはいうまでもない。従って全世界の学者の注目的となる物質でもあり、それだけに研究の重要性も大きく、今後我が教室は岡野教授を中心として我々の絶えざる研究が必要である。一方我が教室は研究の反面、学生

の教育面では学生中心主義である。大きな夢をもった学生の意見を大いに尊重し「大いに学べ、大いに遊べ」を両立させて行きたい。昼休みは運動に、日曜日には時には教室そろってピクニックに行き気分転換をやって自然にひたるという家庭的な雰囲気もある。しかし、実験化学は実験を重要視するという実験第一主義の先生は、研究室の実験態度については非常にきびしく訓練されるのも又当然のこと

薬化学教室

教授 加藤 鉄 三

大正8年生れ、昭和18年東大医学部薬学科卒、前東京薬科大学教授、その間一年間ノースカロライナ大学で研究生生活を送った。トリメチルピリジン誘導体の合成で学位をとり、ピリジン化学及びピリジンNオキサイドの研究を続けている。

助教授 山 中 宏

滞米中、「建設期の急がしい教室を抜け出して楽な生活をたのしませて頂いて甚だ申し訳ない。帰ったら、その理め合せとして雑用は一切引き受けるから、云々……」といった旨の手紙を書いたことがある。本人の記憶は定かでないが、薬化の教室員全員がそう言うのだから確かなんだろう。

さて仙台に帰って来て二三日したら、「今度、アミコスに教室紹介の記事を書くことになったから、執筆して呉れ。」との話である。「冗談じゃない、仙台には半年しか居なく、それから一年留守にし、而もまだ着いたばかりなのに、書けるわけがないじゃないか。」と一応逆らっては見たものの、例の手紙の一件を持ち出されて「これも雑用のうちだ。」と開きなおられて見ると、何ともいたしかたなく、遂に承諾されられてしまった。

いよいよ書く段になっても、一年の不在がたたるのか、もともと文才がないのか、とも角どうしてよいか全く見当がつかない。それで一応参考のためと思って、各大学の薬学部（又は科）の学内誌を引っぱり出して見た。どれもこれも、10年、20年、又はそれ以上の歴史のある教室の紹介であるので、書いてある内容がまことに立派であり、第一研究テーマに関する部分など、大部分が国際的脚光をあびて居るものであるだけに、記事そのものも実に堂々として自信に満ちており、殆ど参考にならない。のみならず、それと比較すると、こつちは開設以来18ヶ月。「手前どもの方は、かくかくの見解のもとにこの研究を、この様な角度から行って居ります。」と大見えを切れるようなものはま

でしょう。4年生後期に課せられた特別実験は、テーマの研究を通じて少くとも何か一つ自分のものにして卒業してもらいたい。そのことが将来大いに役立つこともあるだろうし、学生時代のなつかしい一つの思い出にもなる。私も石館研究室の出身ですがまだ若く、これから核酸の研究をやろうと思っている。全く学生と同じような気持ちで自分でもあきれれる位である。 (岩口孝雄 助教授)

だ持ち合せていない。「こんなことなら見るのじやなかった。」と思っても、見てしまったものはいたしかたなく、これを思いあれを考えるにつけ、出るものは溜息と煙草の煙ばかりといった次第になってしまった。

「だけど物は考えようだ。そんな立派な教室だったら、今すぐとはいわなくても、何年か後に俺達だって出来ないことはなからう。幸い教室は加藤教授というまさに三原監督に匹敵する名伯楽に率いられて居るのだから、あとは教室員の誰かが秋山になり土井になり近藤になれば良いわけだ。要は一人一人が銭のとれる教室員になるようにつとめることだ。」と考えたら、幾分気持ちも楽になり、溜息も止って来た。

そんなわけで、薬化学教室は目下的新建設期に当たっての作戦として、当分複素環化合物の領域から出ないつもりで、(どのチームもホームグラウンドでは強いからという理由で)5人の教室員が、加藤教授を中心として、その分野でもろもろの戦法を研究して行くことにして居る。複素環化合物の化学は、例えば炭素芳香環化合物の化学の如く、よく整理されて居るとは言い難いから、実験が予想通り行かない場合の方が多く、それだけに面白いものであり、近き将来、吾々の誰かが一発引っかければかなりの進展が期待される。

三原脩は大洋勝利の原因を語った時に「人の和は大して重大なファクターではない。チームの勝利がふえるにしたがってチームワークは自然に形成されて行くものだ。」と言ったとか。私は80%位の三原教信者であるがこの点に関する限り、彼に同意することが出来ない。理由は又機会があったら述べさせて頂くとして、研究室における人の和というものの重要性をしみじみと感じて居る。その点薬化学教室はかなり理想的に行って居ると考えてよく、これだけが今のところ自慢に出来る唯一のたねだと思って居る。

果してチームワークよく天下を制するか、はた又一発屋よく勝利の得点をたたき出すか。お代は見てのお帰りといいことにして、今後の進展に御期待を乞う。

(山中 宏 助教授)

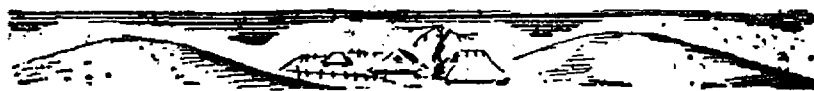


図 書 室

図書は薬学研究の原動力になるもので、緊急の完備がのぞまれておりましたが、幸い皆様の御協力によって、薬学図書室を新館の二階の南側に作る事ができましたので、薬学図書室の概況について、簡単に御説明します。現在、亀谷教授が図書主任に当たられ、図書室整備のため、新しい方法を取り入れられながら、いろいろと御指導して来られました。そして一般事務的なことを、栗田が務めております。

図書室と言いましても、新設して間もないものですから、昨年までは、洋書、和書とも少々、名ばかりでしたが、現在は、いろいろと設備も完成し、最近購入した新式の鉄書架も備えつけられ、バックナンバーの補充、製本などに多忙を極めております。又最近は薬局より410冊ばかりの本も入りしましたので、次第に図書らしく、落ちついてまいりました。

主なる本として、目下のところ集中的に洋書をそろえる

ため、ようやく、パイルスタイン、ケミカルアブストラクトだけをそろえましたが、そのほか40種近々の外国雑誌を購入し、各研究室で回覧致しております。予算の関係上、和書の方は、薬学雑誌、実験化学講座、その他漢方に関係の本のほかあまりございませんが、おいおい集めてゆきたいと思います。

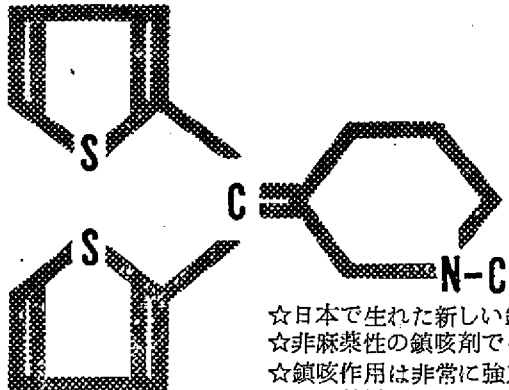
設備としましては、文献複写のために、デベロッパもありますので、単時間に文献が複写され大変便利ですから、御利用願います。

将来は、書庫と閲覧室は別々になる予定ですが、現在は一緒なので、学生の利用もふえている現状ですが、暫く御辛抱願います。

以上簡単にのべましたが、採光もよく、また壁の色も書架も明るい静なグリーンなので、一体に明るく、落ちついたよい感じの図書室となりましたから、気軽に御利用下さい。

今後とも、いろいろ工夫して利用される方の便宜を計りながら、努力して参りたいと存じます。（栗田君子）

新発売




$$\begin{array}{c}
 \text{CH}_2\text{-COOH} \\
 | \\
 \text{HO-C} \text{---} \text{COOH} \\
 | \\
 \text{CH}_2 \text{COOH}
 \end{array}$$

**健
保
適
用**

- ☆日本で生れた新しい鎮咳剤で、弊社の特許製品である
- ☆非麻薬性の鎮咳剤で、普通薬として使用出来る
- ☆鎮咳作用は非常に強力で、コデインと同等又はそれ以上の効果を発揮する
- ☆副作用が少なく、便秘、悪心、嘔吐などは認められない
- ☆毒性が少なく長期間に亘り安全に使用出来る

—— 新強力鎮咳剤 ——

アスベリン



大阪市東区道修町 田辺製薬株式会社 支店 東京・福岡・札幌 AV4

特別実習紹介

衛生化学教室

◎ N-methylbarbital の代謝について

1) mono-N-methylbarbital の合成。

2) 脱メチル化反応について調べる。(荒川)

◎ Alcoholdehydrogenase の分離と血中のアルコールの定量

alcoholdehydrogenase は広く酵母、肝、高等植物や細菌などに含まれており Negelein も Wuff によりビール酵母から分離された。この酵素は次の反応の触媒として働く。

$$\text{ethanol} + \text{DPN}^+ \rightleftharpoons \text{acetaldehyde} + \text{DPNH} + \text{H}^+$$

ethanol に特異的に働くので裁判化学的に血中 alcohol の定量が可能である。(長浜)

◎ TPN の精製

肝細胞 microsome には種々の異物を代謝する酵素系が生じる事が報ぜられている。この系が活性を生じるためには等しく TPNH と分子状酵素を必要とする。精製した TPN を利用して、異物代謝の酵素系を知ろうとするもの

である。

(野尻)

◎ エポキシステアリン酸とビタミンE

ビタミンE 欠乏食で飼育されたニワトリは脳軟化症や渗出性素質となる。これはビタミンE 欠乏による組織脂質の酸化によるものと考えられる。オレイン酸の酸化生成物エポキシステアリン酸をニワトリに投与しこの酸化物との関係又ビタミンE の作用機序を知ろうとする。(水野)

◎ Coenzyme Q

TCA cycle 中にコハク酸が脱水素されフマル酸となる反応がある。この H₂ はコハク酸酸化酵素系を経て H₂O となり体外に出る。この酵素系中に coenzyme Q (2,3-dimethoxy-5-methylbenzo-quinone の5位に isoprenoid 結合をもつ構造) が関与している。この補酵素の作用機序を知ろうとする。(百瀬)

◎ 有機りん製剤の cholinesterase 阻害と PAM による回復

有機りん製剤の毒性は cholinesterase の作用の阻害によるものであり PAM (Pyridine-2-aldoxime methiodide) がその解毒薬として発見された。しかし PAM がすべてのりん製剤に有効とはいえない。そこで最近の有機りん製剤についてそれらの毒性と PAM による回復の度合をしらべ、化学構造との関係を見る。(渡辺)

薬品作用学教室

薬品作用学は、内容的には医学部の薬理学と非常に似ているわけであるが、全く同じというわけではなく、薬学科としての最大の特色たる化学的な部面にも重点を置いている。従って、薬理といえばカエルの頭をちよん切って薬の作用点を調べたり、マウスやモルモットに薬を投与してその作用を調べたりすることばかりやると思われるかも知れないが、この教室ではそうでなく、まず合成をやってからそのモノについての薬理実験をやることになっている。合成といってもそう難しいものでなく、一行程か二行程のものであるが結構1~2ヶ月はかかり、又、自分で作ったものの薬理実験をやるのであるから張り合いがあるというもの。従って、我々も合成の部と薬理の部に分れており(合成する教室が狭く一度にやれなかった為) M君とU君はすでに合成が終り薬理の方に移り、O君が薬理より合成に移り、F君はずっと合成を続けており、G君は薬理を続けてやっている。合成が最初に終り鼻高々のM君は、自分で組み立てたプレッシャー装置を用いて、マウスのシッポを押えては鎮痛作用を調べるべくキモグラフを描いている。薬理に移りたてのU君は、今の所は静注の大家にならんと、マウスのシッポを暖めて静脈を浮き上がらせては注射をし、1回でうまくいった、今度は駄目だと一喜一憂。モルモットの喉を切り開いてはコチヨコチヨやって作用があるとかないとかいっていたO君は、今や合成に移り、エーテ

ル層にモノがくるのだこないのだと奮闘中。出てくる結晶をかたっぱしからすでに百回近く融点測定し、融点測定なら何でもこいと自慢のF君、期待のモノの方はまだ取れぬらしく、ああでもないこうでもない頭痛鉢巻。カエルの腹筋で薬の作用を調べては時々キモグラフを描いていたG君、こう寒くてカエルが冬眠に入ったんでは話にならず、俺が薬学科で一番利用してるなど自慢の程図書館に行っはもっぱら文献調べ。以上が現在の我々の実習生活の概略だが、他に毎週金曜日毎にゼミが開かれ、助手と学生が交互に当番となり前もってその日やることを調べてきて、教授以下他の十名を相手に色々と説明講義し質問を受け、解らぬところは皆で議論することになっている。やる内容としては最近の薬理学的な進歩業績が主であるが、他に基礎的なステロイドの命名法等というのやることになっている。勿論原文は英語で、語学力は絶対に必要。

これが我々のやっている内容であるが、その他のこととして、やはり薬理実験をやる以上どうしてもマウスやモルモットが必要で、又それが生き物である以上毎日その世話をしやらなければならない、又動物の体や排泄物より出る悪臭はがまんしてもらわなければならない。もっともこの臭いの方は、慣れればその中で飯を食える様にもなり、又臭いが身体にしみ込んでデイトの妨げになったということも聞かない(もっともこれは、デイトをした奴がいないからだということになり保証のかぎりでない) からいいとして、排泄物の掃除の方は覚悟してもらいたい。(福島)

薬 劑 学 教 室

当教室では学生4名が、4つのテーマにとりくんでいる。以下各テーマについて担当者の記す所である。

(1) 薬品の吸湿性について

医薬品を調剤、製剤化する工程中、或は貯蔵中、しばしば外界より水分を吸収し、浸潤、固化、着色、分解等の変化を起す。しかし薬局方に於ても単に「潮解性」「吸湿性」等という様な外觀変化のみを表現しているので正確な吸湿は不明である。そこで何らかの数値的表示が当然要求される。それには薬品の吸湿平衡図を求めるのが最良である。現在の所吸湿について特に考慮しなければならない消化酵素剤に於てはまったく試みられていないので消化酵素剤10種の吸湿平衡図を求めている。(酒井)

(2) 耐酸性消化酵素剤サナクターゼの消化力試験について

黒麹菌の深部培養により生産される耐酸性消化酵素剤サナクターゼの薬劑学的研究の一部として最初にサナクターゼに含まれるアミラーゼの糖化、及び糊精化、ヘモグロビンを基質として蛋白消化力、エステラーゼ作用、セルラーゼ作用、スルファターゼ作用、及びホスファターゼ作用を検討し、従来より行っている各種消化管模型内に於るその

消化剤としての応用について、既知の各種酵素剤と比較している。(島田)

(3) 酸アミド類の溶解補助作用について

溶解補助剤としては、酸アミド類が広く利用されているが、そのうちバルピタール系薬物に対する酸アミド類の溶解補助作用を検討している。J. C. Eatonの理論にもとずき、溶解補助剤と被溶解物とのComplex形成の有無を屈折率を測定することにより確かめている。以上の第一段階として、acetamide, propionamide, butyramide…及びそのメチル、エチル誘導体の合成より始めている。(高石)

(4) イソプロピルアルコールの消毒能について

イソプロピルアルコールはエタノールに比較して安価であり、殺菌力の点でも優れているといわれる。イソプロピルアルコールの他の殺菌剤との効力比較、その最適濃度の文献はあるが、in vitro な方法で行われたものである。最近我国でも使われ始めたが濃度は一定せず、しかもこれらは欧米人の実験によるデータを基礎としていると考えられる。今後その使用の広まる事が予想されるので邦人の場合にも適切であるかどうかを Price の "The serial basin handwashing test" という in vivo な方法で検討している。(武田)

薬 品 製 造 学 教 室

医学部の北門の一角に応用生理学教室の建物があり、当教室はその建物の片隅を借用していますが、間もなく新館が完成すると、当教室もそこへ移転することになっている。

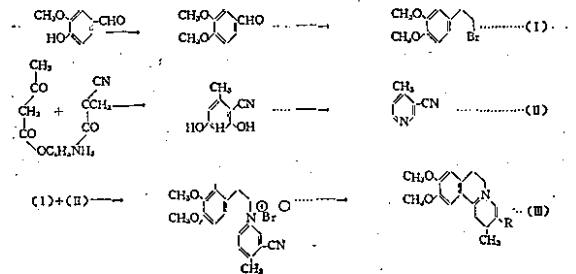
現在、特別実習生は九人おり研究室に全員収容出来ないで、半数は研究室で他の半数は新館の二階にある学生実習生で各自熱心に研究勉学に励んでいる。

どの教室にもその雰囲気がある様に、我が薬品製造学教室には他教室では味わ得ない独特の mood があり、mood ということを重ねている。この mood は烈火の如きファイト、石より堅い意志と身体、羽毛より柔かい heart によって出来上っている。この当教室の mood は長く保たれ、当教室の伝統として生かさなければならない。もしこの mood が死なば、たとえ世界的の研究がなされようと、インカ帝国の残骸となる。かかる故に将来当教室に來られる諸君は、この mood を大切にすることが要求されるのである。

次に当教室の顔ぶれを紹介しましょう。采配を振るは亀谷教授通称「亀サシ」、愛妻家がかつロマンチストである。川内の高台にあるスイートホームから愛用のルノーで通勤されている。参謀はこれまた愛妻家の高野助教授で目下滞米中である。更に研究熱心な野村助手、オメダ仲間かの humorist 福本助手、紅三点の佐藤さん、熊谷さん、飯豊さんの下に我々9人の侍達が指導承っている。以上の

顔ぶれの下に、当教室は情熱的で明るい雰囲気を満たされているのである。

我々特別実習生は、各自のテーマの下に研究を進めている。9人のテーマで一致していることは、当教室の大テーマである「イソキノリンアルカロイドの合成」に基いていることである。次にテーマの一例を示す。このテーマはⅢの物質を合成することが目的であるが、大略次の様に研究を進めている。



上に示したのは(Ⅲ)を合成する研究を進める上の計画表に過ぎず、(Ⅲ)の合成が成功するかどうかは別問題である。だが「史記」にもある様に「断じて敢行すれば鬼神も之を避く」の意気込みでテーマに取組んでいる。

当教室は烈火の如きファイト、石より堅い意志と身体、羽毛より柔かい heart を持つ諸君の來られんことを鶴首して待ち望んでいる。(佐藤)

生物薬品化学教室

私たちの実習では、先ず植物の採集、抽出、分離、精製なる操作をやる。これらの前処理をして単一物質が得られれば、その諸性質をしらべ、何であるかを同定していく。最大の目標は未知物質を単離し、その構造決定、薬物学的応用にある。以下三人のやっていることを簡単に報告する。

海藻中の酸性アミノ酸を目標にして抽出、単離し予試験を行っている。海藻は動物蛋白に比べると塩基性アミノ酸の含量が少く、必須アミノ酸含量のバランスの点でも満足なものではない。しかし遊離アミノ酸としては、すでに興味あるピロリジン誘導体や含硫アミノ酸が発見されているし、まだ未知物質も存在する可能性が大きい。D-系に属するアミノ酸が単離されているのも面白い事実である。今のところ数種の海藻について水浸液をイオン交換樹脂クロマト法で脱塩濃縮して得られるエキスについてアミノ酸の検索を行っている。(京田)

ノボロギク *Senecio vulgaris* の含有成分についての検索は、原料が少ないので一応打ち切り、現在ヤクシノウ *Lactuca denticulata* の抽出を行っている。前者についての跡をたどってみる。先ずそのメタノールエキスを石油ベンゼンで抽出、そのエキスをカラムクロマトにかけ、石油ベンゼン、エーテル、アセトン、メタノールで溶出し二種の結晶を得る。それらの定性試験、融点、旋光度、元素分

析値、赤外吸収スペクトル等からステリンの一種と同定する。石油ベンゼン不溶物について朝比奈式抽出を行い、エーテル層からフラボノイド二種、母液から一種を得る。残留エキスをアンモニアアルカリ性にしてクロロホルムで抽出アルカロイド一種を得る。その他にも沢山の物質が含まれるが、分離操作が未熟なため、それらの分離、精製することができない。(草野)

ハマスゲ *Cyperus rotundus* の根茎を水蒸気蒸留すると茶褐色の粘稠な精油成分を得る。現在調べているのはこの精油成分にどんな物質が含まれているかということである。これには、順序として、その一般的物理恒数即ち屈折率、旋光度、比重、酸数、けん化数等を測定する。このような混合物はこれをできるだけ各単一な物質として精製、単離していくのが次の仕事である。われわれはこれを流出クロマトグラフにかけ、溶媒をベンゼン、ベンゼン、アルコールと変化させ、各炭化水素、カルボニル化合物、アルコール、酸、その他に大きく分ける。そして例えばカルボニルのフラクションをとり、クロマトにかけ、更に小さなフラクションに分ける。このフラクションの各々について旋光度、屈折率を求め、そのデータより一緒にできるものは一緒にして、2, 4-ジニトロフェニルヒドラゾン、セミカルバゾン、赤外、紫外の吸収等より総合して存在物質を追求していくのである。我々は現段階では、クロマトを終って、赤外、紫外、その他カルボニル誘導体等を検討しているところである。(柳瀬)

薬品分析化学教室

薬品分析化学教室には4人の学生が配属されている。そのうち2人には機器分析関係のテーマが、他の2人には核酸関係のテーマが与えられている。なお前二者には国庫補助が出ている。次にその内容の概略を紹介する。

—pH meter と Spectrophotometer の連動装置の試作—
金属イオンは種々の Ligand と様々の Chelate 化合物を作るが、この組成は pH の変化に伴い変化する。Spectrophotometer に滴定装置をつけ更にこれを pH-meter に接続させ、pH の変化に応じて現われる吸収を連動的にとる装置を考案し、pH の異なる Buffer solution を用いて一つずつ吸収を測定する手間を省くことを目的としている。当面の問題は石英 Cell にガラス電極を挿入させる点にあり、機械装置を日立と協同試作中である。現在 Phenanthroline-Cu, Citric acid-Cu, 及び三者の Mixedchelate について実験中である。(村田)

—Polarography による Morphine, Nalorphine 等の定量—

Morphine を Nitroso 化して生ずる 2-Nitrosomorphine は極めて不安定であるが Morphine-2, 3-quinone-2-monoxime と 互変異性体で quinoide, benzoide の平衡

関係を保つから、KOH の添加によって比較的安定な Morphine-2, 3-quinone-2-monopotassium oxinate に変化する。一定条件下で処理した後、Polarography による定量を行うと Morphine hydrochlorid の濃度が $3 \times 10^{-3} \sim 1 \times 10^{-4} M$ の範囲で Morphine-2, 3-quinone-2-monopotassium oxinate の還元波において拡散電流 $I_d = CK$ が成立し、Morphine の定量が可能である。(近)

—Guanosine より Guanosine-5'-phosphate の合成及び Adenosine monophosphate (AMP) より Adenosine diphosphate (ADP) の合成—

当教室の主要テーマである Polynucleotide の研究に関連して上記の合成を行っている。Guanosine を原料としてまず ribose の 2', 3' の OH 基を Acetone で保護して、2', 3'-o-Isopropylidene-guanosine を作り、Di-p-nitrophenyl phosphate を磷酸化剤、Di-p-tolylcarbonylimide を触媒として反応させ、2', 3'-o-Isopropylidene-guanosine-5'-di-p-nitrophenyl phosphate を合成する。これを LiOH を用いて加水分解を行い、Barium 塩としてとり出す。また AMP より ADP を合成する実験も併せて行っている。(高橋)

—E. coli より Polynucleotide Phosphorylase の分離・精製—

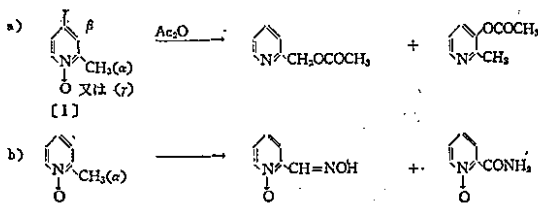
上記の酵素は Polynucleotide の合成に関与するもので、ここでは、特殊培地を使用して振盪培養した対数期の E. coli を集め、その菌体を音波で破壊し、 $10,000 \times g$ で冷凍遠心を行い、上澄を硫酸分別して粗製のものを取りだす。これを Column chromatography 等によって精製す

る。Assay は ADP を用いて、Polymerization の結果遊離する磷を Allen 法により比色定量する。同時に Paper-chromatography も行って確認の手段としている。酵素溶液の蛋白定量には Folin 法の改良法を採用している。Polymer をなるべく多く得よう検討中である。(水柿)

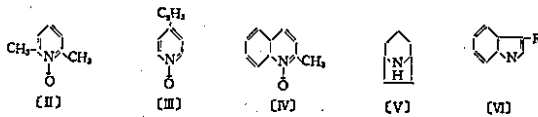
薬化学教室

含窒素芳香複素環化合物に於て N-oxide 基の α 位又は γ 位にアルキル基が付いて居る場合それ等が N-oxide 基と関係した興味ある反応性を持っている事は良く知られた事実である。

例えば



然しこれ等の反応は [I] に置換基を導入した場合；アルキル基又は母核を変えて見た場合 (CH_3 の代りに C_2H_5 を入れる或いは Pyridine の代りに Quinoline を使う)；反応条件を変更した場合等のデータが不足しており、その点まだ充分よく整理されているとは云い難い。



中居建介は [II] に対する (a) の反応を

引地学は [III] に対する (a) 及び (b) の反応を
竹内芳成は [IV] に対する (a) 及び (b) の反応を夫々受持って実験している。これ等の実験は収率を問題とするよりもむしろ反応成績体をきちんと捕捉する事が重要であってその為細心の注意が要求されている。又、

日塔脩はこれ等の反応結果の一つの応用として [V] を 2,6-Lutidine から効率よく合成する事を試みている。これに関連して (b) が液安中での反応であり且つ今後液安の化学を大いに複素環化学の領域に取り入れる必要もあって柴田徹一は液安中で Indole 誘導体 [VI] 又は Quinoline 誘導体を合成する事を工夫している。話はかわるが Indole 誘導体には生理作用の面に於て非常に面白い性質を持つ物が多いから Indole 誘導体の化学も又 N-oxide との関連のもとに再検討しておく必要がありその第一段階として

中村善次郎が各種 Indole 誘導体の合成法及び化学的活性を検討中である。又

林春江は Pyridine, quinoline N-oxide の 4 位の求核置換の際の反応性を反応速度を測定する事により解決すべく実験中である。反応速度の測定結果から反応機構を解き明していく事は有機化学の定石的手段の一つであるが現在の所 N-oxide の化学ではあまり取り上げられていない。その点この実験はそれ自身独立的意味を持つのみならず将来前記 (a) (b) 等のデータが出揃って機構を追究する必要が生じた時の重要な基礎実験となるものである。

画期的改良がなされた

☆ Toyo 新製品 ☆

角型重量式フラクシオンコレクター
遠心ペーパークロマトグラフィー

記録型濾紙光電濃度計
マグネチックスターラー

〔新 版 型 録 進 呈〕

東洋濾紙(株) 仙台出張所

仙台市北二番丁 125

TEL ③ 3859 ⑤ 0926

二 占守の一日

— 20年前の採集旅行記 —

竹 本 常 松

昭和15年8月13日(晴)

スキー帽、冬オーバーに身をかため、所要の食糧などリュックにつめて、私たち二人(阿部又三氏と私)は片岡湾基地を出発、別飛に向う。たまたま武田某と途中まで同行。武田氏は20年間この地でカニ缶工場の経営に当たってきたというだけあって地理に詳しい。

あちこちの山蔭に重油タンクや弾薬庫が見え、北辺守備の第一線と感じさせる。行けども行けどもマツを踏むが如き草原である。その間にミヤマハンノキ、ハイマツ、ハンゴンソウなどが優生している。後方に幌漣の連峯は早くも雪をいただいてみえる。空高く飛んでいるのはトビでなくてタカの一様だと教えられる。その昔、考古学者があばいたカムチャダールの古墳が左に見える。神之僕婢之墓、生入死出と書いた木の十字架が荒蕪の砂丘に傾いている。付近を十字ヶ丘とも呼ぶ由。ここで武田氏と別れる。あとは私たち二人きりである。浜辺でハマニンニクを見かけたが、穂はほとんど残っていない。もちろん目的の麦角も着生していない。これはネズミが噛みきって地下の穴にはこぶためとわかった。低地にはキロキノロバイが咲いている。やがて別所二郎蔵方にたどりつく。二郎蔵氏は明治年間、郡司大尉を長とした北千島越冬探険隊の一員別所佐吉氏の子息で、年の頃32、3才か。丸坊主、円顔に眼鏡をかけた髭ショボの氏は、土間で指物最中であった。自分で架ける橋の名を刻んでいたのである。彼はこの島で産れ、函館(?)の中学を卒え、再び戻って父の遺志を継いで、北千島唯一の定住家族となっている。三人の子女(長男五才、長女三才、次男一才)と夫婦五人暮しで子供のとりあげも

自分でやったという。

キツネ九匹、ほかにヤギ、ニワトリなども飼っていた。キツネは海藻と魚肉で飼育、ヤギは夏は放牧、冬は舎飼して堆肥を作らせる。鶏舎は冬期は地中に埋め、春から夏にかけて段々と上の土をとり除いていくという。野菜は藪で囲って浜風を避け、貧弱なのを作っていた。奥座敷にはクマの毛皮が敷いてある。とてつもなく大きいのに一驚。昨夏付近で仕留めたそうであるが、元来、占守島にはクマがないので、カムチャッカか幌漣島からでも渡ってきたものであろうとのことであった。庭先を流れる川は別飛沼から発し、一帯は渺茫たる湿原をなしている。巾10米ぐらいの川の両岸に柱を立てて水中には鮭網を仕掛け、水面1~2米のところにはテニスのネット様のものが張られている。これがカスミ網だそうで、ガスの深いこの地では、朝夕川面に沿って渡るカモがこれに首を突込み、時には十数羽も捕獲されるという。遠来の珍客に二郎蔵夫妻の話はつきそうにもなかったが、二里半の帰路が気になりだしたので一家のご健在を祈って辞去、六時すぎ駅通所に帰着した。

× × × × × ×

去る日、学生諸君がやってきて、「あみこす」に「何か」書けとのことだった。気の弱い私は、言葉を濁してその場は態よく断ったつもりでいた。ところが、日を経て、くだんの諸君がまたきて、拙稿を促すや急である。○君や○教授のように、平素識見を備蓄しておき、大新聞の夕刊にまで、定期的に随筆をものするなどの才能のない私は、こんなときにハタと、困惑するのである。あれこれと悩んだあげく、やっと二十年前の北千島採集旅行の秘録(?)の一部を再録して責を逃れることにした。先日、森繁久弥演ずる映画「地の涯に生きるもの」をみたが、ところどころで別所二郎蔵氏を思い出し、往時をなつかしんだ次第である。(35. 10. 31) (教授 生物薬品化学)

Sehermez

日独薬品

肝炎・胆嚢炎・胆道炎
胆石症・黄疸・消化不良に

フェリカール

20球 ¥350・50球 ¥700・250球 ¥2,800・1,000球 ¥10,500



二つの夢

加藤 皓 一

小学校三、四年位いの男の子が家を飛び出すと、裏の垣根を通過してすぐうしろを走っている函館本線の方へ歩いていった。線路の向うには、北海道独得のあの広大な田畠が続いていた。日は斜めになりかかって、空の一方にはもう赤味を帯びた雲が浮んでいた。少年は線路を横ぎると、その向うを流れているかんがい溝の川縁に腰を下した。そして、この大きな河の流れを見ながら、その川面に映える空の色が青から赤に変わり、そしてそれが薄暗い色になるまで見つめていた。別に悲しい事があった訳でもなく、又母親に叱られたのでもなかった。

生来、僕は一人で自然の中で時を過す事が好きだった。そして、夕食の用意が整って僕の帰るのを待っているとこゝろに帰る事が幾度かあった。

家族八人のうちで、男の子が僕だけであったせいかわさい時から独りで遊ぶ事を覚えた。近所に同じ年頃の子供が居なかったわけでもないのに、その人達と遊んだ記憶はほとんどない。このまま本の虫にでもなったら、いわゆる「大したもの」になっていたであろうが、およそ青白き秀才とは縁の無い今日の姿になってしまった。

大学と云うものが、この世の中にある事を知ったのは、小学校三年生の頃だったらしい。一番上の姉が、昔の高等女学校の修学旅行にいった土産に「子供の科学」と云う本を買って来て、「大きくなったら、赤門に行きなさい。」と云われたのを覚えている。その本に書いてあった事で今でも覚えているのは、ヤシ油から石けんが製れると云う事である。

僕のワンパク時代は人よりずっと後れて五・六年の時だった。その時の好敵手だった男が今、北海道で柔道四段の青年柔道家として知られていると云うのを聞いたとき、昔の事を思い出してなつかしく思った。

家には「児童文庫」の本が三十冊ぐらいあったが、その中に「子供の実験室」と云うのがあって良く読んだ。多くは物理的な実験であったが、姉達の使っている物理・化学の教科書等と共にながめているうちに、炎色反応やプリズムによる白光の分触などが気に入る、先づやったのがナトリウムの炎色反応で、バーナーの代りにアルコールランプを使い、石綿の代りに脱脂綿を使い、これに食塩水を漬して薄暗い部屋でやった事を今でも憶えている。こんな事をやっていたものだから、子供のよくやっている遊びはほとんどやらないうでしまった。今考えてみても、子供はやはり子供の中にはいって子供らしい遊びをするべきだと思つて、その頃の事が悔まれる。だから、今でも小さな子供達が遊んでいるのを見ると一種の興味をおぼえる。

こうして小学校を卒業すると、旧制釧路中学校に入学し

たが、一年余りで父の郷里の大分に転校し、ここで中学、高等学校時代を送った。クラブ活動も終止化学部に席を置き汽車通学をしていた関係上、いつもならもてあます時間をほとんど部室で過した。何をやってたかと云われても、これこれと云える様なものは何もやっていないが、薬品室に這入って、並んでいるピンを見ているだけで楽しかった。

そして、将来化学者になる事を夢みて大学に進んだが、富沢分校当時も教養部の化学部にはいった。この頃、四人の学友と共に井上助教授の部屋で有機実験を見せていただいたが、今考えてみて、この時の事が一番為になっている様に思う。こうして何とか理学部の化学科を卒業した。そして今、化学と云う奥の知れぬ巨大な山の登山口に立っている。僕はこの山に這入る権利だけは与えられた。これからは自分の努力一つにかかっている。そして、改めて化学屋でない化学者になろうと決心を確めている。

もう一つの夢、それはずっと後になって生れた。

我々は科学者である前に人間でなければならぬ学問的にはいかに優れた学者であっても、それが家庭をもかえりみられずに為されたものであるならば、生活の基盤から遊離したものであるから真の科学者と呼ぶわけにはいかない。こう書けばもう見当がついたであろう。その一つの夢とは理想的な家庭をつくる事である。

結婚は人生の墓場なり…などと、就もらしい事を云っている人達もいる様だが、そうなるもならぬも、その家庭を作っている人達の心がけ次第ではなからうか。僕はそんな状態には決してしないつもりである。

しかし、こういくら力んでみてもこればかりは独りでは出来ない理想的な家庭を作るために、僕と一緒にこの目的の為に力を借して呉れる人がいなければどうにもならない。一般論として、結ばれるべき両者は、互いに相手の人格を尊重し、対等の立場に立ちながら、共通の理想に向つて力を合わせてゆかなければならない。

だから、男の立場からみても、女性の立場からみても、相手は誰れでも良いと云うことはあり得ない。だから、そう云う人物が現れて深く知り合うと云う事が起らなければ何とも仕方がない。結局、独身と云うことになる。全く妥協のない様な理想的な人と云うのは居ないだろう。しかし、どうせ妥協なのだ云う事を頭から前程として行動するのと、少しでも理想型に近いものを求めるのでは本質的な違いがある。とは云うものの、現実には仲々困難なものである。幾度となくこの説を放棄しかけたがあと二三年はこの説をとる事にして、それでも駄目ならば僕の考え方なり、行動なりに本質的な誤りがあるのであるからよく検討してみる事にする。

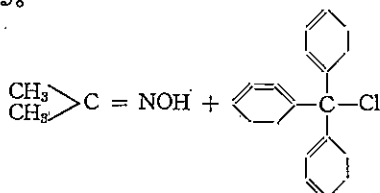
人は夫々夢を持っている。夢を追うと云う事を単に「ロマンチック」と云う言葉でゴマカシてしまわないで、お互いにその夢を育てる様に努力したいものである。

(助手 教養部)

液体亜硫酸中での acetoxime の反応について

庄 司 堅次郎

今年の夏休み非水溶液化学研究所戸倉研究室で学生実習をやるチャンスがあった。以下はその時行った内容の一部である。



の反応を行おうとして先ず acetoxime 5.2g (1/14 mol) を liq SO₂ 13cc にとかすと簡単にとけた濃黄色溶液となる。次に triphenyl methyl chloride 19.8g (1/14mol) を同様に耐圧ビン中で 90cc の liq SO₂ にとかした。色は黄褐色、その間約 5 分。その二つをいよいよ反応させるために一つに合せようとした時、acetoxime 溶液が白濁しているのを見つけた。まだとけのこりがあったのかと思ひさらに liq. SO₂ を加え 約90cc としたが白沈は消えなかった。耐圧ビンが一杯となったのと又 trichloromethylbenzene 溶液にとけるかもしれないと思ひ両者を混合した。しかしその白沈は依然消えずビンの底に沈殿した。acetoxime が最初の観察通り完全にとけたものとしたら、これと SO₂ が反応したと考えられるので、このことを先生に報告した。

新たに acetoxime を liq SO₂ にとかして出来る物質について調べて下さいといわれた。

そこで acetoxime 14.6g (1/5 mol, mp 58~60°) を liq SO₂ 約 25cc にとかした。完全にとけた。約 1 分後白濁し始めた。これを氷で冷やし (-15° 寒剤, NaCl) 約 1 時

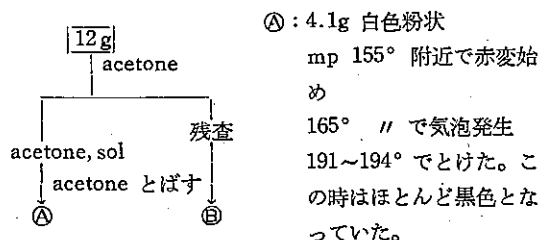
間後みると無色の針状結晶が liq SO₂ 中にみられた。回りの液は透明であった。常温に戻すと又白濁したがその時は先ずその針状結晶がとけて消滅してから改めて白濁することがわかった。これより白濁を作っている物質と針状結晶の物質とは異物のものではないかと思った。

acetoxime を合成した時、結晶の形成を観察していたのでその針状結晶は未反応の acetoxime らしく冷されて溶解度が小さくなり従って結晶してきたものと推定した。

常温 (約 28~30°) で 5 時間放置した後、SO₂ をとばし始めた。ビンの口に塩化カルシウム管をつけ、さらに結晶が飛ぶのを恐れて口紙をつけておいた。栓をあけ一晚放置し翌朝残った物質をピーカーにうつし、減圧乾燥した。物質 12g を得た。白色結晶で臭いは acetone, acetoxime とも違っていた。mp は 51° でしめり 52~55° で一部とけるが約 2/3 は 155° 付近で褐色に変化し、キャピラリー中で気泡の立つのがみられた。

この物質は benzol には加温してもとけず acetone にはとけるものととけない部分とがあった。

硫黄の定性分析を行うと存在することがわかった (ナトリウム熔融試験) そこで acetone で分離することにした。



Ⓐ : 4.1g 白色粉状
mp 155° 付近で赤変始め
165° // で気泡発生
191~194° でとけた。この時はほとんど黒色となっていた。

S : 存在, N : 不明, (S と混在しているときは定性反応しにくい) 有機溶剤に不溶

Ⓑ : 5.4g 針状結晶 : mp 52~57°
acetoxime と Ⓑ とを混融試験すると mp 54~60°
故に B=acetoxime と見なした。

耐性ブドウ球菌に!

米国メルク社提携

CATHOMYCIN

※ キャソマイシン
CAPSULES

基準名結晶ノボピオシンナトリウムカプセル

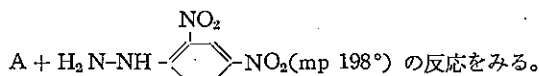
適 応 性



葡萄球菌感染症：敗血症，髄膜炎（脳膜炎），心内膜炎，産褥熱，化膿性腎盂炎，蜂巣織炎，よう（カルブネル），疔（フルンケル），乳腺炎，耳下腺炎，肺膿瘍，膿胸，脳膿瘍，乳様突起炎，中耳炎，化膿性関節炎，膿痂疹，皮膚感染症，眼化膿症等。



変形菌による尿路感染症：尿道炎，膀胱炎，腎盂炎等。

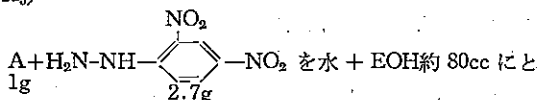
Meiji 明治製薬株式会社

④の分析結果：C：19.88% 19.88/12 = 1.66
 H：5.41% 5.41/1 = 5.41
 N：15.76% 15.76/14 = 1.12




これは先生の助言で A を  C=NOSO₂H だろうとの推定からもし、2,4-dinitro phenyl hydrazine と反応すれば hydrazine が hydrazone になり  C =

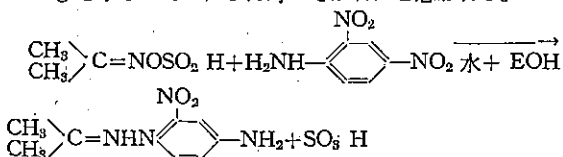
N-NH--NO₂ がえられ、これは文献によると mp 126° の物質である。従ってはたして A が、未知の物質  C=NOSO₂H であるかどうかをさぐることにした。



かす。しかし一部の hydrazine はとけない。200cc 三角フラスコで 35 分 reflux する。溶液赤色、未反応の hydrazine があつたので温時ロカシ母液より赤橙色の結晶をえた。mp 118° 附近でしめるが、大部分は 130° を over してもとけない。これは原料 (mp 198°) らしいのでこれと反応生成物とを分離するためにいろいろ有機溶媒をこころみたが原料は acetone にとけやすいが反応生成物と思

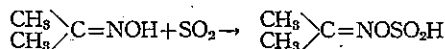
われるものはとけにくいことがわかった。そこで acetone を少量加え手早くロカシて生成物と思われるものの密度を高めた。

mp 124~126° 一部まだ原料らしきものの痕跡ある。これより A =  C=NOSO₂H と推定した。なおこの反応でできる NH₂ SO₃ H は 0° で水 100cc に 20g, 70° で 40g とけるのでロカシた時のぞかれたと思われる。



なお先生と相談この物質を acetoximino-o-sulfinic acid と一応命名することにした。又赤外分析にかけ、つきりさせることにした。

C : H : N = 1 : 5 : 1 の分析結果を得たが acetoximino-o-sulfinic acid は C : H : N = 3 : 7 : 1 にならねばならない。これは多分 acetone の乾燥が不充分だったということと、④ そのものが crude であるためと思われる。又 mp の高いのは ionic bond のせいであり、有機溶剤にとけなかったのは無機塩的になっているからであると思われる。



実験期間 7 月 15 日 ~ 28 日

"におい" について

高石勝夫

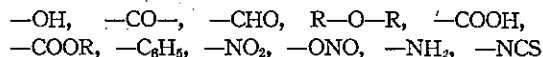
食物の味を完成する上に密接な関係があり、単なる味覚よりも嗅覚の加味された所謂香味の味は食物の味を大いに左右する。胡椒、芥子等の香、魚や肉の風味といわれるものの中には嗅覚による要素が多分に含まれているのである。このように食物の重要素であるにおいについても、嗅覚は個人差が大きく、また経験や熟練によって上達し、引続いて一つのおいをかぐと嗅覚の疲労を来し、終りには全く感ぜられなくなるものであると同時に、においがその種類も多く、多くの場合数種のにおい成分の混合されたものなのでその分類は極めて困難である。化学の本などを見て、アンモニアは刺戟臭、亜硫酸ガスは刺戟臭と書いてあるが、両者は明らかに相異し、またヨードホルムは特異な臭、クロロホルムは特異な臭と書いてあるが、これではどんなにおいなのか少しもわからないのである。においの科学的分類は Henning 氏によって行われ、彼はにおいを次の 6 つに分類し基本香とした。

花香 (花の香) 果香 (果物の香) 葉味香 (丁字、肉桂など葉味の香) 樹脂香 (樹脂、杉葉などの香) 焦臭 (コーヒー、カラメルなどの香) 腐臭 (腐肉、腐卵などの臭)

また加福氏はこれに腥臭と酸臭を加えて 8 基本香とし、Zwaademaker 氏はエーテル性香、芳香性香、バルサム香、麝香、腥臭、蒜香、焦香、酸敗臭、麻酔香、嘔吐臭の 10 に

分類した。

においの本態については色素類における発色団 (呈色団)のごとく、分子中に発香団 (発臭団) が考えられており、これに次の様な原子団があげられている。



においと分子構造については可成り広汎な研究があり、例えば前記原子団の位置によってにおいの種類等もかわるものである。

音の調和がある様に、においにも調和の現象がある。二つの有香物質を混じた場合、それが嗅ぎ分けられるようなのは調和ではなく、例えばアルコールに葡萄糖、有機酸等を配して造った合成酒では明らかにアルコール臭を感じるというが、これに反して醸造清酒には融和した複雑な香がある。紅茶にウイスキー、肉に胡椒はよく調和するものであり、魚の腥臭に生姜などは腥臭を相殺して調和するものであろう。

尚「香」と「臭」については、両者の厳然たる使い分けは不可能と思われるが、「香」とは「良いにおい」、「臭」とは「悪いかおり」などと注釈してあり現在多く用いられている慣用名もこのような注釈にもとづくものと思われる。本文でも便宜上この慣用名を用いた。特にそれにこだわる必要を感じなかったからである。

参考文献

栄養化学：田所哲太郎、食品化学：田所哲太郎
 調理化学：有本邦太郎、食品の色味香：稲垣長典
 香辛料の化学：大平敏彦

自由と責任と限界

村田正弘

昭和35年という年はいろいろ大きな事件のあった年である。国内に限ってみても例の安保をめぐる左右の対立は異常なまでの興奮をまきおこし、民主主義の根本理念が改めて考えさせられた。採決のため警官を導入し、国会に乱入したり、外国の招待客の車を襲う。拳銃の果てには野党の委員長を演説中にさし自分で練艦で自殺する少年が出て御丁寧にこれを紳様扱する者がいるという現況は外国人からみれば奇異どころか野蛮国と警戒されても無理はない。これはいくら練達な外交官や東京特派員の筆をもってしても到底説明しつくせない。然し少々皮肉な逆説的な見方をすれば、戦後の否、日本人の歩んで来た物の考え方を注意して見るならばこの間の事情はよく理解できる。

私はこの誌面で安保の是非や政治の論争を試みようとしているのではない。ただ安保をめぐる騒動の中で、少しもこの問題に対しての態度もしないで、全学連の狂気じみた動きをプロレスの試合の如く観戦していた観衆と評論家が如何に多かったかを指摘したい。政治は知らないと冷静に火を消す努力を放棄して野次馬にまわった人々—あなたは自分の家が火事になった時、私は消防夫ではないといってみていられるだろうか—によって火事がますますえひろがり、その上少くとも生きていて日本のためにマイナスにならなかつたであろう人を失い、多くの善意の人達に希望を失わさせてしまったのだ。武力革命やクーデターがいつも無知な民衆の上で成立していることは歴史が教えている。日本が今の状態を更に改めないのなら危険性を十分に持つと考えるのは悲観すぎるであろうか。

私はこうした日本人の物の考え方が政治の面ばかりでないことを強調したい。或る人はこれを単に国民性という一語で片付けている。しかしこの国民性という言葉はよく検討してみる必要がある。東洋の島国という地理的ハンディは長い年月の間中国他二三の国を除いて余り外国との折衝をもたなかつた歴史的ハンディを生んだ、封建制度はよく国民に徹底して来た。折角諸外国と交際できる機会は鎖国という形で自らの手で失い、西欧の自由、民主の風潮が入るチャンスを失ってしまった。以上の条件は勿論一部であるがだからといって日本人の消極性、無責任性の弁解にはならない。福沢、西等の自由民権運動は吉野等の大正デモクラシーに受けつがれたのに何故軍部専横から太平洋戦争へ突入してしまったのだろうか。一体私達は自由とか民主主義に対してそれを獲得しようと真に努力したことがあるだろうか。私達の祖先でどの位の人が自由のために生命をかけて戦つたであろうか、日本の歴史上勇名な武将は数ある。然し彼等の大部分は政権欲や支配欲からの戦いであつ

た。近世になって農民一揆や九州のキリシタンの禁教反対のための乱があつたが、これとてどの位民衆に徹底していたか疑問である。こうして形の上で明治維新という近代化を迎えた。そして一番不幸なことには敗戦という犠牲の賜物として民主主義を得たのである。確かに日本の大衆は戦争中長い間自由を奪われて来た。又敗戦、戦争による損失は莫大な犠牲であることは認めるが、それでも民主主義がややタナボタ気味で手に入った感はない。それから15年、日本は新日本を看板にして歩んで来た。なるほど憲法を読んでも社会科の教科書をもても大学の自治会をきいても民主主義が一杯である。民主主義と称して自由と権利を主張する人のなんと増えたことか。更に自由主義を唱え、子供達生徒、後輩共に理解を示す親達、先生、先輩のなんと多いことか。反面、彼等が主張する自由と権利にきいてもきれない筈の責任の観念は失われていつている。このため社会生活に於いては戦前より却って住みにくくなってしまったと歎く人が多いのも尤もと思う。いわば自由と権利はインフレ時代の通貨の如く実質的に下落したのである。外国での見聞を持たぬ者が外国人を比較の対照に用いるのは噴飯であるが、書物や映画等を通じて知る外国の社会生活が一面で私達よりはるかに秀れている点がある。それは彼等が自由—物をいう自由、行動する自由、その他あらゆる自由を非常に大事にしており、そして自由を守る唯一の切札が責任であり、したがって責任の持てる範囲で行うという限度をわきまえている事である。これは西欧諸国が名誉革命、宗教戦争、独立戦争など長い苦しい忍耐強い自由のための戦いの末得た輝い勝利だからであるためと考える。実際西欧諸国は近代まで外国による統治が実に多い。そして自由であることが如何に尊いことであるかを身にしみて感じているのだ。支配からの自由は家庭生活、社会生活への自由に拡大された。他人に迷惑を掛けないことを社会生活の根本とし、義務を果すことにより権利を主張する態度には感心させられる。一面からみれば冷たいようにみえる家庭生活—同じ家にいながら人の部屋に入るのにノックする習慣なども反面から考えるならその合理性が伺える。これに反して日本人の物事の処理のあいまいさはひどい。するのにかしないのかぼかすことを美德と考えている人が若い世代にも多い。約束の守り方などでんでいい加減である。特に身分が上下になると上の者は守らないでいると偉くなったような錯覚を起すことがあるのは困ったことである。その上一番始末に終えないものに井戸端会議伝統の猜疑心と羨望がある。自分が本心を言わないから他人の言が全てうそに思われ、他人を全く信頼出来なくなってしまっている。話合の仕方でも国会を悪例の模範として自己を主張するのはうまくても他人の言はきかない。自分が考えるように他人も考え行動すると断じて団体生活を乗りこえて個人生活、家庭生活にまで干渉する。話が脱線してきたが要するにお互に真情を話して意見の相違点を確かめ合えばいいではない

か。一から十まで同じ行動をしようとしても絶対無理である。意見立場が異っても自分のしなければならぬ責任は果す大原則を守っていれば少くとも社会生活は円滑にいくと思う。

私は立派な社会科の教科書を持ち世界でも屈指の就学率を誇る日本人の大人達に何故こんな利己主義者が多いか不思議である。高校2年あたりをピークとして最も民主的な生徒会の委員達は人の間隙をぬい立身出世を企てる情ない小市民に転落する。入学試験はじめ数多い非情な試験という怪物が社会の先端に立つべき大学生を真先に利己主義者に転落させる宿命も宿命のままに任せていいものであろうか。

自分の責任ということを真に考える人ならば、自由というものに限度があることはすぐ気がつくはずである。人は誰もみな社会的な地位を有している。地位は封建時代の如き絶対のものではないが、その地位はその人の行動に限界をつくる。敢えてこの限界を越える身勝手な自由を享受しようとするなら反社会的として社会はその人をその地位から追放するだろう。一見より窮屈にみえる社会的地位の前進により質量共により大なる自由を得ることを知るべきである。不道徳をもって売物にする映画や強烈な刺激を提供する音楽や出版物が多い。高度に機械文明が発達し、生活が豊かではあるが単調になる現代がこれらを求めるのは当然といえる。然し膨大なこれらのものに圧倒され、仮定と現実の善悪の判定の差がわからなくなり、創作中の人物の行動を実行するのを現代人と定義する輩が余りに多くなつては真に自由を愛好する者が少々片苦しくなっても致し方ないと覚悟すべきである。もし道徳教育を復活させれば、それを悪用しようとするより悪い奴等にむざむざ場を提供することになる。だからこそ私達が自己の責任という問題を改めて考えて行動しなければならない必要がある。

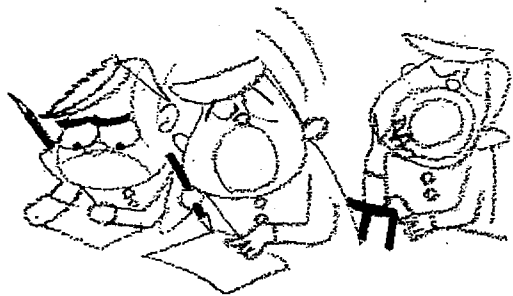
現代の社会は英雄の出現を望んでいない。経済界も教育界も政治界さえも一人の大事業家、大先生で物事を処理できる時代でない。科学、研究の世界では無論の事である。全てが協力によって成果をあげるべきでそのため一人一人が基礎を築かなければならない。ヒマラヤの峰に日章旗をあげるの一人でもそれには沢山のベースキャンプとその前になん度か登頂を企てた先達の努力が実っている。研究第一主義を掲げるのは結構だが研究の特権としてふりまわす態度は謹しみたい。性質上事務機関とは異なる故尺指定規も困るが、研究故に他へ迷惑をかけたり、政治も芸術もしらない弁解にはならない。それは古い象牙の塔の生んだ憐れむべき奇型児である。

社会は大学に対して崇高な学問の仙人を要求するより科学技術をもって産業文化に奉仕する社会人を希望している筈である。

大学の4年間余りに無意味に過したような気がして今になってあわてている。自己を振り返ってみての反省を書きつらね誌上を汚したのを陳謝する。



○ 眠むけがさめて あたまスッキリ



眠むい ダルイ 頭がボンヤリする…こんな時にカーフェ・ソフトを一錠。これで眠むけがさめて頭スッキリ。神経がピンとなります。カーフェ・ソフトは安全な居眠り防止剤です。

居眠り防止に 水なしでのめる

カーフェソフト錠

16錠 150円・50錠 400円



エーザイ株式会社 東京・大阪・札幌・名古屋・福岡

故

郷



寒河江というところ

安食由比子

わが故郷 寒河江は仙山線で二時間山形までのりつけ、山形から左沢線にて40分、本当の片田舎でちょっと見た感じでは何のとりえもないような街である。まず自慢の種となることは、そうね、お酒とサクランボ位かしら。サクランボってかわいいのよ。小さな赤い顔をして五つぐらいつつほおずりしてザクザクとたれているの。六月の下旬頃にはもう私達の小さい手を待っているのです。サルのように木登りして両手にたくさんの実をのせじっとそれを見つめるといや見つめてなんかいない、何も考えずにパクついてしまう。そしておなかこわすのも忘れてしまう。そのときばかりは私も子供にかえったような気がする。実際まだ子供なんですけど。

お酒も大部作られる。だから寒河江には大酒飲みがたくさんいるかも知れない。私もそうになったら大へんだな。こんどは寒河江の自然風物を紹介しよう。それは寒河江音頭によく表われている、それをちょっと上げて見よう。

あ、あ……

そよる春風、ヨイトサノサ
たもとにひめて

誰を待つやら長岡あたり

色と風味のサクランボ

いつまでながめもつきの山

サ、サ、サカ、サカ、サガエ良いとこ

ちょいと来て見なよって見な。

どうですか。田舎くさいと言われるかな、でも田舎だもの仕方ないよね。からりと晴れ上がった日に長岡山に登ると田んぼと市内が一望に見渡せるし、松風のそよぎの中で楽しく語り興じている姿があらこちらに見うけられる。真夏の暑い最中にもここだけは涼風が吹き老若男女のいづれの人の集いにもこの上ない良い場所なのです。そこに古びた木造の母校があるのです。そこに朝夕慣れ親しんだ私ですもの。井の中の蛙であり、のんきな人間であるのも無理ないことでしょう。そういう目だたないところに、故郷の良さがあるのかも知れません。そして少くとも私などはその環境の影響をうけて、このようないたっていいかげんな人生の路を歩んでいるのです。

福島

沼知延江

入学以来「お国はどこですか」「福島県です」「磐梯山とはどんな山ですか」と、福島県人なら誰でも磐梯山を知っているように思っているらしい。しかし私は、いくら福島県といっても浜通りに住んでいたの、残念ながら磐梯山へ行く機会に恵まれなかった。今夏は丁度良い折であるからと高校の友達と登ってみた。「スカイライン」をバスで通ったが、頂上に行くにしたがって霧がたちこめ、一寸先も見えなくなってしまった。又「磐梯山」に登山したその時は台風が来る直前だったので、雨にふられ、風に吹かれ散々な目に会った。そんな訳で、せっかくの登山も天候に恵まれず眼下をよく見晴すことができなかった。けれども五色沼の美しさ、檜原湖、秋元湖、小野川湖等、もっばら湖を鑑賞し、キャンプファイアをたいて歌を歌いあったことなどが何よりの楽しみになった。

山形

武田宣子

山形はのんびりした静かな町である。天災もなければ、火事なども少ないいたってのんびりしたところである。カミカゼタクシーとかトラックとかよく聞くがそんなものは見たこともない。四方を山に囲まれたこの村山盆地はブドウやサクランボがよくとれる。西には月山、東には蔵王がそびえ近年これらの山にわざわざ東京大阪からぞくぞくやってくる。蔵王山にも今ではケーブルカーやリフトが出来じいさんばあさんでものぼられる程である。土曜の晩の晩登山の時などは真暗闇に続く懐中電灯のあかりがみごとな曲線を描く。月夜の晩の蔵王登山はまた格別である。冬の蔵王も素晴らしい。でも惜しいことにこの頃はもうまるで銀座の延長のようににぎやかである。でも夕日にはえる樹氷はなんともいえないすばらしいものである。山形自慢が、蔵王宣伝のようになってしまう。失敬！

日立

宇野紀弘

工業都市といえ先ず日立の名が頭に浮んで来る。それだけに戦時中の様子は大変なものだった。幼い時からこの土地に育った私にはその印象、戦争のすさまじさは格別なものがある。第二次世界大戦も終りに近くなると米軍の飛行機が絶えず頭の上を飛び1トン爆弾を落していく。そこには直径十メートルもの大きな穴があいたものだし、ほとんどの民家は被害を受けたものだった。ただ茨城大学の工学部もとの多賀工専の近くにあった高射砲にわずかな望みをたくしたものだが、一度も真価を發揮せずに終わったようだった。終戦直後、八反原から鮎川にかけてのコンクリートの道路を米軍が飛行機の滑走路に使っていた状態がしばらく続いたのだが、それから約十年、私の郷土日立は敗戦のみじめな姿から立ちなおし立派な工業都市として復活しますます発展している。日立市は昭和三十年町村合併で茨城県一の人口を有するようになった。

夏になれば仙台同様繁華街は七夕で飾られ、花火大会も催される。あちこちに新しい工場が建てられ道路も整備されて、工業都市として新たな一増の発展が期待されているのである。

新庄祭

江本昭子

新庄祭というのは戸沢藩の守り神天満宮の祭典のことで、宝暦年間(約180年前)に大凶作のため領民が全く飢餓の死線をさまよう有様だったので、その時の藩主正湛公が領民の意気を高め且豊作の祈りをこめる目的でこの祭典を盛大に行ったのが始りです。今では科学の発達にともない本来の意義はうすれ山形県のはずれ新庄盆地に住む人々の最大の慰安となっています。八月の前半ともなれば遠くから村の青年達の練習するはやしの音が虫の音にまざり高く低くきこえてきます。祭の当日は大名行列、仮装行列と数多い催の中で子供達のかげ声と青年達のはやしの音を共う出車が一番人気を集めます。出車は歌舞伎の名題が多く義経などさかんに取られます。岩、松、桜、ぼたんなど必ず配置される中にひときわ人形が人目を引きます。人形の衣装もさるものながら、名匠野川陽山氏の作る人形の顔はぴったりあった表情と美を極めた上品な容貌にはほれほれするものがあります。はやしの音と子供達の楽しげな足音はいくつになってもなつかしくゆかたがけで市内の露店商に顔を出してみたくになります。

函館

中村修子

港町として歴史の深い函館の観光都市としての一面を、御紹介しましょう。

牛の横たわっている姿に似ているというので、臥牛山と呼ばれてきている函館山(山と言っても334.5メートル程度)の山頂から見下す市内のながめ(特に夜景)はすばらしいものだ。今では山の設備も整ったので、十分楽しめる。真夏でも山頂は、潮風が吹いてきて涼しい。

その他の名所としては、啄木の碑のある立待岬、トラピスト、etcがある。最近、函館の町に関係深い、詩人の啄木と高田嘉兵衛の記念像も立てられた。トラピストでは、祈りと労働によって神に一生を捧げる人々が無言の生活をしているのです。ここでは、全く自給自足です。女子トラピストは郊外の静かな所にあります。男子トラピストは、函館から車で少し行ったところにあります。汽車に少し揺れて行くと国定公園に指定された大沼があります。湖面にうつる駒ヶ岳の姿はとても美しいのです。ここではボート、ローラースケート等の娯楽設備があり、現在、その他の設備を整えるべく、着々準備がなされている。またここには、良く訓練された二頭の熊が居り、愛敬者となっている。

一般にあまり知られていない所でも、歴史的に意義がある所があるのも不思議ではない。例えば、完全なる中国の建物として、日本にただ一つ現存しているという建物が、函館に『中華会館』として、残っているようだ。(実際まだ見たことはないのだが) 外人墓地等にも、昔の繁栄していた時代が思われる。

自分の住んでいる函館の町を、足であちこち歩き回るともっともつとついろいろな面白い勉強ができそうである。

高橋長盛堂薬局

仙台市肴町五十一番地

電話(2)4548番

やまなし

金山民子

山があっても『やまなし県』とはこれいかに。こんな言葉をよく耳にするが、山梨県は確かに山にかこまれた所である。南方に富士、北方に八ヶ岳、西方は南アルプス、東方は秩父多摩国立公園の延長である山々…。朝な夕な山をながめてくらししている。従って、いたって気持が大きい。仙台にはこう言った山が少ないためかほこりっぽい感じがする。夏休みに帰省し再び我家の周囲を見わたしたときは何か、緑が目にしみるような感じだった。この山梨即ち甲斐の国は戦国時代には武田氏の領土であった。すばらしい戦力、深い思考力と慈悲心を持つ武田信玄、勝頼は誰でも知る人だろう。疾如風。徐如林。侵掠如火。不動如山。と歌われている武田氏である。この伝統をうけついでか、甲州人は質実剛健だと言われる。観光面についてみるとお隣の長野県に比べると観光地がずいぶん少ないように思われる。富士五湖（河口湖、山中湖、西湖、本栖湖、精進湖）と鼻仙峡、あとは山ぐらいのものだろう。産物としてはブドウが第一。毎年ブドウ狩りに山梨を訪れる人々の数は相当なものである。その他カキ、モモ etc 以前は水晶も名高かったが最近は何も余りふるわないようである。以上山梨を概観して見ました。

帰省して

吉沢香子

／大学生生活初めての夏休み／

／仙台土産を持って、早く家へ帰りたい！／

7月ともなると、1足先きに心は三ヶ月間も離れ住んだ故郷へと飛んだ。一口に三ヶ月とは言うものの、慣れぬ下宿で淋しく家族を思慕する私にとっては、日の過ぎる遅さに腹立つ時もあった。

いよいよ夏休み第一日目、7月10日の早朝、晴々とした気持で仙台に別れを告げ、一路郷土へと向う。車中では「この夏休みの中に旅行をしよう。読書もしよう。勉強も…」

等、あれこれと望みが次から次へと流れ込む。

故郷へ到着までもう30分一汽車が何となくのろく感じられ、私の胸は家族に会う楽しみど、住み慣れた郷土を踏みみたい気持でトキメキする。

「さあ、郷土へ着いた」宙に浮いている様な気持で急いで出口へ駆寄ると「うあっ、黒くなったこと、少し太ったね。」と第一言の声を掛けられた。嬉しい様な、辛いような、入り混った変な気持になりながらも、「ただいま」と挨拶をし、日照りの強い川内の原っぱで戯れる様子を話して聞かせると、両親はにこにことうなずいてくれた。茂々とした木々の緑が太陽に輝き、夏風に葉がゆらぐのが目に止まる。青々と伸びる垣、花壇に囲まれた我家に足を入れたとたん、思わず深呼吸をし、久しぶりに帰った故郷に親しみを覚えた。東を見れば壮大な奥羽山脈が聳え、西の一角に、秋田富士（鳥海山）がぼっかりと浮び、南には、すくすくと伸びる畑を隔てて、くっきりと浮き上って見える純白な住宅街……。見慣れたはずのこの風景にうっとりさせられ、心を新たに眺めた。

池沢一郎

僕の父の故郷は栃木から一時間バスにゆられて行く山間の小さな町であります。ここでは8月13日の夕方になると、みんなさっぱりと着替えをして山のお墓に魂迎えに行く。麻がらを束ねた一間余りの大きな松明に火をつけ燃しながら家まで靈魂を案内する。松明の煙りに魂が乗ってくるのだそうである。山を下りる時とつとつと足が早まるといふっている松明にポーズと火がついたりする。遠くからみていると誠に原始的な雰囲気や情緒あふれる、山村の風景である。

妻神恵美子

津軽半島の最北端竜飛崎へ行った時の話。今別という所から4.5里の道を歩かねばならなかった。荷物は船で運んだらよいということで、船着場で交渉したところ、荷物だけでは40円、人も一緒であれば30円、おまけに学生さんだからとのことになって、二時間近くの船旅が僅かに20円と格安になった。旅ならではの愉快な話。

メガネは

島田眼鏡店

仙台市東一番丁三九（三越南隣）
電話 (2) 2435番

医薬品
衛生材料
度量衡

フタミ薬局

連坊 127
TEL ③代 4195

登山



旅行

大山

足立毅

夏休みの帰郷中に、友達にさそわれて山に登った。その山は白山火山帯の一員であり、国立公園でもある「大山」ダイセンという山である。海拔1713mでその姿が「富士山」に似ているというので、「信吾富士」ともいわれて山陰地方の人々に親しまれ愛されている。「朝日に映えてそびえ立つむらさき深き大山を、日ごとに仰ぎ眺みつつ…」これは我々の高校の校歌であるが、附近他の中学校高校の校歌にもたいてい歌い込まれている。鳥取県でも端の方に存する弓浜半島の先端に住んでいる我々は、家から200m程行って海辺に出ると、右側には砂浜が弓形になって米子まで続いている夜見が浜、正面には美保湾のかなたに大山の雄姿をいつでも眺望することができる。夕日をうけて真赤に焼けた雲々の間にそびえ立っている大山、銀色に覆われた大山、沖の方で漁をしている魚舟の群をじっと見守っているかのような大山。小学生の頃にはよく海辺に行つて、新鮮な清々しい海辺の朝の空気を吸いながら大山の左際の水平面からまんまるい真赤な太陽がのどかな海面に姿を映しながら立ち昇るあの神秘的なまでに美しい日の出を見ては平和感や幸福感に浸ったものだ。大山も他の山と同じように春には登山、遠足、観光客でにぎわい、夏にはキャンプ、登山、秋には紅葉を見るための観光客、遠足、冬にもスキー、登山と四季を通じて登山者は絶えない。毎年遭難で生命を失う者も絶えない。僕が初めて大山に登ったというより行ったのは小学五年生の秋の遠足の時だった。紅葉した黄色や橙色の落葉がちらかっている山道をドンダリを拾いながら歩いたのを覚えている。中学の時も遠足で二回行き、高校の時には四回行った。しかし頂上に登ったのは夏休み中に2人の友達と登ったのが初めてであった。3人のうち頂上まで登った経験のないのは僕だけで、A君は2回目、Y君などは6回目だそうだが頂上で日の出を見るという悲願はかなえられていないという。細かい計画などは様子をよく知っているY君にすべて任せて僕らはただそれに従えばよいのである。天候の関係で8月11日に出発、汽車に40分間乗って米子に行き、米子から大山行きのバスに乗ると1時間半程で大山の中腹位に着くバスを降りるとさすがに山である猛暑の下界とは比べものにならない程気

持がいい。空気は澄みきっているし涼風も程よく肌を感じ木陰に入るとひやりとして寒さを感じる位だ。さっそくY君が連絡を取っておいた旅館に行き持ち物を置いて外に出る。初めに石段を登って大山寺という寺に行き喜捨と書いてある箱に10円玉を入れてつり鐘をついた。ゴォーン、ゴォーン、力いっぱいつり鐘をついたら気分が清々したそれから河原正面登山口に行ってみてその日は早く旅館に帰った。近くのキャンプ場からはキンパー達の歌声が聞えてくる、大変楽しそう。明るく日は3時に起きて身仕度を始める。手長シャツに毛糸も身に着け、腰には弁当を結わえ手には懐中電灯を持って、3時半には旅館の横の登山口から出発、真暗な道を懐中電灯の光だけを頼りに黙々と登る。初めのうちは木で縁どった段々が続き、しばらくするともはや段々はなくなり狭い道に木の根っこがいっぱい張り出しており、ぼやぼやしているとなまづくし大きいやつになるといちいち手をかけて進まねばならず、なかなかやっかいである。静寂な空気を破って激しい3人の息づかいがはっきりわかる。今度は石ころばかりの道だ、狭い道の右側は相当急な傾斜が下の方まで続いており足を踏みはずしたら危い。空は晴れてはいて月も見えるが、雲の存在も無視はできない。「今年も日の出はだめか」とY君がつぶやく、風は全くない。「もうすぐ4合目だ」とA君が励ます、とにかく4合目までは一休みもしないで登りに登った。4合目で少し休み又出発、しばらくすると上の方で「ヤッホー」という声が聞えた。懐中電灯をふりまわしているのも見えるがまだ真暗なので姿は全然見えない。どんどん登って行くと今度は話し声が聞え出した。姿も見えない。話しぶりから大阪あたりの人らしい。6、7人のうち女性の姿も2、3人見える。「おはようございます」どちらからともなくそういって僕らは彼等を追い越した。まだ4時過ぎである。それから例のようにいろいろなグループを追い越して6、7合目まで来ると少しずつ明かくなり始めモヤモヤした朝霧の中にかろうじて下界を見下せるようになった。帯のような弓浜半島、その先に島根半島も見える。8合目になると傾斜もずっとと少なくなり頂上もすぐそこに見えていた。5時少し過ぎてようやく頂上に着いたけれども日の出は雲にさえぎられて見られずY君の6回目の悲願も破れた。僕は水筒を持っていなかったの、頂上のモルタル造りの山小屋で70円のサイダーや50円のジュースで我慢した。頂上には既に50人も60人もおりその内3/5位が女性であるのには驚いた。小学生も中学生も、高校生も、一般の人もいた。6時にもなるとすっかり明るくなった。雲海を見下す気分もまんざらではなかった。

× × ×

ざ お う

吉 井 玄 亮

8月に入ってからの山はだめだと言われている。それは天候が変りやすいかららしい。でも僕達の場合は8月半ばであったが、そう悪くはなかった。蔵王くらいだから何も心配ないのだが、何しろ僕達4人は本格的な山登りをした事のない者ばかりなので親達が入らぬ事まで心配してくれる。テント、毛布、セーター、カン詰め、などをザックにつめる。一人分3,4貫くらいになる。

蔵王温泉までバス。山形駅から50分で着く。やはり蔵王に行く人は多い。四台のバスに満員だ。車から降りてまづ気づくことは風が冷たいこと。

蔵王は国民温泉だけあってなかなかぎやかである。そのにぎやかな中を通りぬけて山道にかかる。ケーブルで登ればいとも簡単だが、それでは山登りとは言われない。それに金もかかる。(この方が先決問題なのだ)

ドッコ沼まで約一時間。出発早々休憩なんていう調子だからそんなにかかるのもやむをえない。歩く時間よりも休憩の時間の方が多様なものだ。太陽が真上からギラギラ照っている。シャツもズボンもあせでぐしょぐしょ。ドッコ沼の岸辺に腰をおろして焼飯にがぶつく。時に11時、ケーブルで登ったやつらは先についてシャーシャーとしている。でも我々には歩いて登ったという誇りらしきものがある。

一応のキャンプの目的地は熊野の頂上からちょっと行ったところであるが、とうてい行かれそうにもない。ドッコ沼をあとにしてザンゲ坂のところまで来る。今まで晴れていた空が急に曇って、霧が近づく。こんな風では、天気も心配だし、上の水の便も案じられる。それでドッコ沼の近くにテントをはることにした。最初の目的はどこえやら、皆すぐにでも横になりたいという気持も大いに働いた。手頃な木立ちを見つけてテントをはる。どうにかこうにかテントははれた。残りのおニギリを食べて、テントに横になる。晩の献立はライスカレー。ギョチない手つきでどうにか作る。案外おいしい。あたりがしだいに暗くなり、近く

山小屋の窓に明りがともる。夜は焚火を囲み、持っていったウイスキーを飲みながらのダベリング。しだいに身体が暖たまって来る。そのままテントに横になる。9時30分。

寒さで12時頃目がさめた。それまでは曉登山をするかどうかは決めていなかったが、どうせ目がさめたのならと言うことで行くことになった。用意して行ったセーターやアンダーシャツを着込んで、下から登って来る一行を待つ。荷物が無いので楽なことは楽だが、道がひどく、疲れるのは前以上である。懐中電灯の光が足もとをてらす。上ったり下ったり大きな石がごろごろしている。そんな道が2時間つづく。午前3時ようやく熊野の頂上につく。登って来た方を振りかえると懐中電灯の光がてんでんと路にそってつづいている。はるか遠く下の方には街の明りらしきものが見える。やはり上は寒く、あんなに着たのに足がガクガクする。皆そっちこちにかたまて日の出を待っている。日の出まではまだ1時間以上ある。雲が大分かかっているらしく星が余り見えない。しばらくすると空がうすらいで来た。四方の山々が黒く雲間から頭を出している。東の空が赤味を帯びてきた。日の出だ。皆が腰を上げる。雲が赤く染まり、雲の切れ目から太陽の光が届く。ちょっと夕やけに似た感じだが、どう形容したらよいか言葉に窮する。一人で皆の足がその方向に向く。寒さがやわらいできた。しばらく日の出の感激にひたる。頂上に未練を残してテントに戻った。大分疲れたようだ。朝の食事をどうにかすまして横になる。今度は4人共グウグウである。

中 村 修 子

秋!『読書の秋』である。そう知りつつも、つい『食欲の秋』の方ばかりを満喫しがちで、もっと読書をしなればと、痛切に感じる。

「本を買うのはいいことだ。もしそれと同時にこれを読むための時間をも買えるならば。——ところで、人はいつも、本を買ったことと、その本の内容をわがものにしたことをゴッチャにする。」

(ショーペンハウワー)

試薬は和光純薬

ウロコ印



ノマークを

特約店

小泉薬品株式会社

仙台市長町北町 TEL代表(3)9131

小泉薬局 支店 大町小泉薬局

仙台市長町北町
TEL(3)9131

仙台市大町五丁目
TEL(2)2171

純度の正確斯界随一を誇る

—犬印試薬—

大信化学株式会社

仙台市荒町19番地
電話(3)3545

十和田湖

菅原浩子

夏休みに十和田湖へ行った。まず青森まで行き、そこからバスで八甲田山のふもとを通り、奥入瀬の溪流をぬって、子の口まで行き、船で十和田湖を渡り休屋に行った。最も一般的コースである。八甲田山、奥入瀬を、バスに乗って、ガイドさんの説明を聞きながら通った。そこを歩いて驚ろいたことには、目ぼしい自然物、たとえば、石とか木とか滝等には、ほとんど名前がついていることだった。他と少し変わった松は、からかさ松。少し勢いの烈しい流れは、阿修羅の流れや白銀の流れ。二筋の小さい細い滝は、姉妹滝。中には、なるほどどうなずかせられる名前もあった。何かそのようにほとんどの目ぼしい物に、ありふれた名前がついていると、美しい景色も、つまらなくなるように感じた。部分部分の美しさおもしろさが強調されると、全体の美しさが、幾分損れるのではないだろうか。その上、名前がついていると、その物の美しさが、定義づけられてしまっているようで、ちょっとつまらなく感じた。しかし、全体として、そんな些細な不愉快は、あまり問題にならない程、景色は美しかった。八甲田山の頂上近くには、わずかだが道路のわきに雪があるのが見えた。奥入瀬の溪流は白いしぶきをあげていた。十和田湖は水が青く美しかった。

磐梯山

榎田和世

この夏、磐梯山へ登った。観光バスの窓からながめた時にはだらかな傾斜、尾をひくように長々と続いている裾野だけが目に入り、これなら苦もなく登れそうだと思っていた。ところが一旦登ってみると予想外に骨が折れた。急な斜面が幾度となく訪れる。ただ頂上まで登りきることを考え、一步一步力をこめて脚を運ぶ。荷物は大部分麓のキャンプ場に置いてきたから肩にかかる負担はない。それにもかかわらず次第に速度はおそくなり、ついには列の一番後につくようになる。前の人との間隔も広がり時々立止っては追いつくのを待っていてくれる。汗がすじをひいて流れだんだん激しくなる。キャンプ場を出発したのが午前4時他の登山者にはほとんど出会わない。昨夜の雨のため径は幾分ぬかっている。白いズック靴には粘土質の褐色のしみがつく。前に立ちふさがる木々を手ではらいのけながら進む。水滴が手の甲を濡らす。やっとやや開けた場所に立つ。頂上にはまだほど遠い。そこに立つ一軒の人家で水を飲ませて貰う。何ととっても山中では水が一番おいしい

もの、ありがたいものである。冷たい湧水が渇いた喉をうるおすと新たに元気が湧いて来るような気さえする。そこで再び出発する。何度も何度も休みながらだんだん頂上へ近づいてゆく。その頃には下山してくる人も大部いる。互に挨拶を交しながら過ぎて行く。急な登りにさしかかる。一角を地上にさらしている手ごろな石を足場に這うようにして登る。下山してくる人に「もう少しですよ。がんばりなさい。」と励まされた時には思わずほっとした。1,818メートルの山頂に立ったのは午前8時半頃であった。期待に反してそこに繰広げられた光景は都会のそれと少しも異ならない俗っぽいものだった。足下にはカンズメカンが至る所にころがっている。人の話し声、トランジスターから流れる音、あちこちでおにぎりを頬張る顔々、およそ静寂幽邃とはほど遠いものばかりである。しかしさすがに眼下の景色は素晴しかった。檜原湖をはじめ大小種々の湖沼が美しい色をたたえていた。水に溶け込んでいる成分の違いによるのか褐色、碧色、コバルトブルーなど各々が微妙な色彩の変化をみせて輝いている。その光線の差しぐあい、雲の浮びぐあいによって湖上に影のさすこともある。同じ湖でも場所により深く黒ずんでいる所もあれば明るく反射している所もある。空は晴れているが時々山特有のガスがかかる。それを通してぼんやりと周囲の峰々が形をなしていることもあるし、魔法にでもかかったように目の前には全く何も見えなくなることもある。やがて次第にガスは消え去り周囲の物が前よりも一層明るくあざやかに感じられる。下山の時は前と同じ径を今度は苦もなく急ぎ下りる。登山者はますます多くなり細い径の傍で通り過ぎるのを待つこともしばしばである。山頂から見下ろした沼の辺りに出る。そこに立ち止って今下りて来たばかりの磐梯山の雄姿を望む。その時はじめて自分はこの山頂に立ったのだという自覚と感激がにわかにわきおこった。山は静かに、荘厳にそびえている。あのふとこころにあのような多くの人々を抱いているなどとはとても考えられないし、目前に見た時には黄味がかかった緑色を帯びた峰々にしても、山頂のすぐ近くに鋭くそびえていた岩山や深い谷にしてもおかしがたい威厳などは感じなかった。今や深い藍色の中に包まれた山頂の凹凸をながめながら自分は本当にあの山頂に立ったのだと何度も心の中で繰返した。

× × ×

◇ ◇ 船木清子

偉大なるミル曰く

「満足せる豚であるよりも不満をいだいている人間のほうがよく、満足する愚者であるよりも不満をいだいているソクラテスであるほうが良い」と。

では不満をいだく愚者であっては。

二人で汽車を

荒 川 睦

いわゆるアルプスについては、君も知る機会が多いと思うので、東北地方の山について知るところを汽車の窓から眺めてみよう。

上野を発ち、平坦な田畠をにらんでいると始めに目に入って来るのが、白河、郡山を過ぎて、磐梯、安達太郎山であろう。正月休みの帰りならば、二本松で下車し、岳温泉までバスである。安達太郎、野地を経て福島までのスキーツアーは、他には求めることの出来ない充実した一日を約束してくれる。(勿論、外地を知らないから日本での比較である)吾妻連峰は新緑の頃、アノコと二人で磐梯高原まで散歩するのが良からう。次に目に飛び込むのは仙台に御縁の深い蔵王である。秋か冬を推めたい。上ノ山、高湯、鎌先、峨々、青根、遠刈田温泉の中では、二人以上の時には高湯、それ以下の時には峨々を選ぶ。仙台を過ぎると青森まで岩手山を除いて山らしい山のないのが不思議に思う。岩手山はその昔富士山と高さ較べをやったと言われるだけに東北地方で二千米を越す鳥海、飯豊に次ぐ三高山の一つだ。確かに富士山と同じコニーデ形の美しい山だが、11月ならばお釜でスキーをするのも良いだろうが、わざわざ来る山でもあるまい。例のワンコンソバでも食べて気をは

らす所だろう。青森で汽車を降り、バスで八甲田山には是非行きたい。それも五月の連休の頃に限る、その他の時期ならもっと良い所があるからだ。I P P A T S U すべて一風呂あびるのも、アカのたまったサラリーマン(君もいずれそうなる!)には欠かせない味であると想像出来る。岩木山もリングと共に有名だが僕は知らない。日本海岸を南下すると悲しき山、鳥海山が海に落ちよとばかり迫っている。真青な日本海だけを目の下にしてチヨッカリをやっていると道に迷う破目になるから念の為。いずれにせよ吹浦からのコースは近い将来、春スキーとして東急あたりが目をつけなければ、僕が狙う所だ。だが厳冬期にはここ程風雪の激しい所は他に知らない。シベリヤからの風が、日本海の水が直接氷になる所だ。酒田から陸羽西線で南下すると出羽三山の一つ月山の雄大な姿にみとれることだろう。月山、朝日連峰は峰続きであると言って良い。共に左沢線で寒河江から入るのが普通だ。岩手県早池峰山と共に高山植物美しいものが咲き乱れる姿が印象的だ。朝日の南に続く山々が東北の雄、飯豊連峰である。この山こそ若さのある時、登るべき山なのではないだろうか。若さ!我々が永い間若き情熱を打込んで来た山だ。あの沢、あの屋根なつかしい短かった東北生活であったが、又二人で、いや孫を連れて、あの道、あの小屋、あの温泉を廻らんことを!それにしても何んと老後の楽しみになるべき山々の東北に多いことよ。残る友に幸あらんことを祈ってめまぐるしかった旅行も終着駅に着こう。

須川紀行

兼 松 明 子

太陽はまだ出ていないが、もう夜明けになるのだろう。テントの隙間から薄ボンヤリとした光がさしこんでいた。そこには露をのせた細い雑草の一群が内と外との界をなして、その生々とした緑は、私達が自然の中にいるのだということをやでも感じさせてくれる。テントの中はまだ暗い。隣の友人はまだ軽い寝息をたてて夢の世界をさまよっている。私はグランドシートの下でゴツゴツしている地面をいまさらのように恨めしく思いながら、それをまだ意識していない友を半ば羨しく、大きく背伸びをした。

ここ須川岳は標高1,627m。岩手、宮城、私田の三県にまたがり、小さな温泉場をもった一名栗駒山とも言われる山である。開発道路が伸びていて楽に登れるが、私達は山の空気がすいたくて、オーレン峠を経て磐井川渡河点に至る旧山道を通ることにした。山腹を九十九折りにぬっていく、うつそうとしたブナの大木に強い日光を遮ぎられた道を、それでも汗びっしょりかきながら登って行く。完全装備の2人組に追い越され、ふと足もとを見ると、木々を通してさじこむ太陽の光に下草がまぶしく光っているオーレ

ン峠をこすと道はほとんど下りになった。台風にでも倒された木々をのりこえ、岩くずれの道を通り、ようやく渡河点に達する。ここから先はいささか急な登りで健脚ならいざしらず、私達には閉口であった。やがてもう温泉場だと思われる頃、道はほぼ直角に開発道路に交わる。道端の岩を沿って流れ落ちる冷たい水に喉を潤し、元気をとりもどして又歩きだしたが……もう着く頃なのに。広い道路は仲々進まない。せっかくの水も皆汗となってしまふ。とうとういくらも行かないうちに道端に腰をすえて、フーツと熱い息をききだす。通りかかった強力さんと挨拶をかわす。「さあ、行きすべ。」もう動けない。強力さんのがっしりした肩に支えられた大きい荷物。何貫あるだろう。とにかくもう少した。私達もようやくおみこしをあげた……。

午前三時半。頂上へ登るならもう出発の方がよい。おねぼうな仲間を起そう。さっきからもう幾組かのパーティが行ったようだ。ようやく4時近くになってから出発。道は谷川にそって行く。火山灰がジャリッと音をたてる。川べりを岩づたいに行く。流れを渡る。どうも道が変だ。こんな所を先の人達は登ったのかしら。道らしいものはなくなって川の石づたいにしか行けない。帰りにうまくとべるかな?友はどんどん先に行く。仕方がないからとにかくついて行く。と急に広い台地に出た。

新噴火口。周囲一帯ただ白ちやけた火山灰、それをとりまく山々の緑がきつい。先に行った友がいかにも小さい。火口は湖になっていて静まりかえっている。一点のくもりも一片の波紋もない。湖の中にも山々があり、空があって夜明けの雲が流れていく。「トルコ石をはめこんだようだ。」友がつぶやく。

これから本当のコースにもどった。道は急に険しくなる。左手前方に見えるのが山頂。まだあんなに遠い。もういやになった。はく息が荒くなる。石ころまで急に大きくなったみたいだ。足をあげるのさえおっくうだ。暑い、セーターはぬごう。まだ遠い、まだ高い。「水は頂上に着いてから。」と友。意地悪、今飲みたい。もうカラカラだ。やっと分岐点に着く。あと二十分尾根づたいに登らねばならない。ここまできたら仕方がない。シャクナゲの白さが灌木の緑の中で光っている。あの岩まで、あのケルンまでもう少し。

自然を愛して

武田 尚子

帰秋、帰仙の汽車の中から、私は山の微妙な緑の色合い、淡い色の岩肌、そしてその色と実によく調和する緑、下の方を所々しぶきをあげて流れていく清流等を眺めるのが大好きである。一年の頃は横黒線より仙山線の方をよく利用した。作並と山寺の間の景色がすばらしいからである。滝や緑、岩、清流が豊富なのだ。そこを通る頃になると窓にかじりつくようにして、汽車がもっとゆっくり通ってくればいいなあといつでも思いながら、過ぎさって行く景色を名残り惜しそうにみやるのである。

しかし、山形から秋田までの間は単調な田んぼが続くし、この線を利用すると仙台から秋田まで8時間もかかるのが欠点である。それで2年になってから、新設された鳴子経由の準急「田沢号」で行ってみようと思った。

仙山線とは別の美しい風景があるだろうと期待したからである。期待通り、鳴子、大滝付近などは素的だった。大滝付近は仙山線の風景に似た、緑と岩と溪流の景色だったが、鳴子付近はそれに加えて、ゆったりとした形の山を背景に、広大な砂原を幾筋もの川が流れていて、いかにも山に囲まれた狭い所を通っている感じの仙山線とは違った感じがする所があった。

私は路線の風景を眺めるだけでなく、色々な景勝地を訪れるのが好きだ。岩、溪流、緑、静かさが自然のままに保たれて、調和している所ならどこへでも行きたい。山に登る時には、私は体力があまりないせいか、ゆっくり休みながら登らないのとびてしまう事が多いが、それでも山道を汗を流して登りながら、道端の草花を愛で、泉で喉をうるおし、友と互いにはげまし合い、又、楽しい自炊、頂上の

1627m。頂は存外広い。ふり返って見ると尾根の道がうねうねと続き、一方の斜面は灌木の林、片方の切りたった崖には残雪がしがみついている。はるか下の温泉場のあたりは朝霧が深く、時おりその切れ目から幾棟かの建物らしいのがのぞく。四方の山々を雲はとりまきうずまいでいる。渡ったらふわふわして気持がいいだろう。誰かが雪を切りとってきた「アイス。エーアイスはいらんかね。」山では誰も子供だ。硬い雪のかたまりが口の中でコロコロする。やっぱり登ってよかった。

頂上で時間をすごしすぎた私達は、あわただしく帰りを急いだ。いくぶん軽くなったリュックで霧のお花畑を通る。地面近くだけがぼんやり見えて、少し先に行く友のまわりを霧は踊っている。立ち止れば、後の後の友がぼうっと現われる。来年も又来よう。霧は私達の通った後を、又一面にぬりつぶす。「さようなら」声はその中に吸いこまれていった。

美しい景観など、山に登る楽しさにはつきないものがある。本格的なアルピニストとは違い、私は山を征服する為には色々な危険を冒すのより、山と親しくなる方を好む。

地元でありながら登らないのも申訳なく、この夏休み中に、日帰りで太平山に登ったが、全山ブナ林で、実に美しかった。あいにくの深い霧で、下界はよくみえなかったが、前岳からは男鹿半島、日本海が一貌にみわたせるそうである。又、台風16号の影響で大雨の中を、乳頭に登ったり、まだあまりしられていない為、自然の美しさと静かさを保っている秋田から日本海岸にそって青森県に少しはいった所の12湖では、たくさんの美しい湖めぐりをし、神秘的な色をした青池に印象づけられ、又、夕ぐれの湖や早朝の湖にボートを浮かべ、さわやかな、ロマンチックな気持ちになったりした。

私には放浪性があるのかもしれないが、友達と計画を立てて山に登ったりするのは別に、美しい自然の中をぶらぶらするのが好きである。そして、ひよとして、こんもりした森の中を歩いていて、名もしらぬ美しい湖や、溪流などに出会ったら、これ以上のうれしさはない。

人に知られない美しい静かな自然を求めて、私は一生涯いろんな所をほつき歩きたい。

御会合ニ好適!!

東 一

キリンビヤホール

電話 (二)四一〇三

趣味のない男

朝倉義臣

ある雑誌社の記者が私の事務所に取材のため来訪した。すでに同社から発刊されたものを見せられたが、それによると、その目的とするところは東北地方に所在している各官庁の業務内容を、一般の人にわかりやすく紹介するところにあるらしい。型どおり私の前歴などについて聴かれ、趣味のこになって、へボ碁であるが少し………と言いつ始めると、彼は碁は誰でもするものであるから、外に何か変わったことはないかとのことであった。変わったことについて私はそれがどのようなことであるか聞きもしなかったが、彼の考えでは碁や将棋は趣味というカテゴリーの中には、どうも入らないようである。事務所内では最強を以て自認する私にとって、いささか不満であったので、反駁しようと思ったが次々と発する質問のために、とうとう最後までその機会を失ってしまった。しかしよく考えて見ると、本を読むとか、マージャンをするとか、碁を打ち将棋を差すことは、全く誰でもすることであって、特に取り上げて趣味という程のものではないと考える方が正しいのかも知れない。

特別な趣味のない私に、時間に空白の生ずるのは当然である。この空白を読書三昧に耽けることのできる人は幸福であると思うが、私にはどうしてもこれができなくて、このような場合、酒に過すことが多いようである。酒を飲むにも、家で晩酌をやるようなことはめったにない。

昨年五月上旬だったと思うが、青森出張からの帰途、平泉へ立ち寄り、半日がかりで史蹟を一巡し、次の列車まで少し時間があつたので駅前の食堂でひと休みすべく入ったところ、偶然にもそこで中学時代の友人に会った。商用で仙台まで出張し、彼も同じく平泉見学に来て、咽の渇きを一本のビールに癒しつつあつたところであつた。八年ぶりの邂逅で、その夜は仙台で数件飲み歩き、不覚に酔つた彼をホテルまで送って別れたが、当時私は仙台へ赴任後間もないときであり、様子が十分判らず、適当な飲み屋を捜すのに随分苦労したことを覚えている。私は公務員である。公務員が酒のために浪費できるお金には限度がある。私の言う適当なという意味はこの限度で飲める適当なことである。今では大分なれて、要領よくなったつもりである。数ヶ月前より時々出かけるある酒場があるが、なかなか感じのよい店である。ここのママさんはとても愛想がよい。愛想のよいのは何処でもそうであるかも知れないが、はいると先ず、「あら、今日はすてきだワ」とやられる。何のことはない、月賦で買ったネクタイのことである。いつも汚れたワイシャツによれよれの同じネクタイを締めているものが、稀に異つたものを付けると、奇異に感ずるの

かも知れない。サービスガールの一人に、酔払うと、やたらに客を手近なところから、ところかまわずつかみたる娘がある。私は握り屋さんと呼ぶことにしている。酔いつぶれる娘あり、酔払つて階段より落ちる娘あり、またある娘は「踊りましようよ」という。ところが全々ダンスは知らないのである。まさに天真爛漫というべきか。私は何の屈托もなく、のびのびと遊べ、酒の飲めるところが好きである。

秋田へ出張したときのことである。帰途に横手より乗り替えて、北上に着いたのが午後の六時過ぎであつた。次の仙台ゆきの列車まで二時間近く待たなければならない。寒い風の吹き通す待合室で待つのは大変である。一パイ飲むことにした。酒の好きな同行氏に異論のあるはずがない。ところで同じ飲むなら次の一の関がよいとの同行氏の意見に従い、三十分待って一の関止りの列車に乗った。二人とも初めての土地であつたが、一軒のオデン屋を見付けることができた。空腹にしみ込む酒の効きは早く、深い。更にもう一軒、次に焼鳥屋へはいった。もうこうなつては二人とも旅行中であることも、列車のことなども忘れてしまつて居るのである。気が付いたときには列車は発車前三分である。改札に駆けつけたときにはすでに向側のホームから発車したあとであつた。

酒のもつ効罪は相半ばするものがあるであろうが、酒は嗜むものであり、酒のために時間を弄ぶべきものではないと思ひながらも、つい度をすぎずことは、凡人のあさましさというべきであらうか。

私の友人になかなかの酒豪がおり、よく一緒に行を共にすることがあるが、彼は酒を飲むこと以外に立派な趣味を持っている。釣りである。時々余暇を見ては出かけるらしい。私も彼の家によばれて、釣つて来たハゼを御馳走になつたこと数度である。またよく釣りにさそわれることがある。私も釣りにはいささか経験もあり、決して嫌いというわけではないが、生来の怠惰が溜りして、まだ実現したことがない。一度お伴をして見たく思っている。

(東北地区麻薬取締官事務所所長)

和洋書籍・雑誌

文具・洋品・雑貨

東一番丁  丸善

日記抄

奈良 武志

7月7日。アミコスに載せる広告を取る為東京近辺の者三、四人というのに、無理に頼んで仙台から行くことになる。

7月26日。朝8時、家を出て仙台駅へ向う。汽車は9時発、始発だが満員。わずか3日間だがはじめての一人旅になんとか心落かず。同じ車内に仙台商業の自転車部員が乗っていた。話を聞くとインターハイ出場の為大宮に行くのだそうだ。家からもってきた本を読みはじめる。

4時頃、東京駅へ着く。駅前のタクシーのたまりで運転手へ宿名を言ったが、場所がわからず、駅の案内所を探す為あっちこっちと駅の中を歩く。おかしな所へ入り込んだと思ったら、丁度、仙台七夕と宮城県の観光地の宣伝中だった為、思わぬところで七夕飾りを見る。5時、案内所での地図を頼りにやっと宿につく。

27日。空は雲一つなく朝から暑い9時半。日本橋白木屋前集合なので、八時半宿を出てブラブラ歩いて行く。宿が兜町の近くなので東京駅の方から歩道いっぱい人の波、それをかき分けるようにして9時頃白木屋前到着。集合時間までまだ間があるのでだれも来ていない。裸婦像の前に立って信号に応じて規則正しい人と車の流れをみ、一人で日本橋まできたのだなあと思うと若干の感慨を禁じえない。少し銀座の方へ歩き9時半近くもどる。最初の予定より一名少く一行七名(2年3人、1年4人)が10時頃広告をもらう為、藤沢、山之内、興和などを次々と訪問。12時半頃一応今日の日程終る。1時に神田で昼食取り、あすの打合せをした後、東京タワーに行くことになる。

タワーは大変な混乱なので二年生は一人も登らず一年生だけ4人上まで登る。120m、1分少々エレベーターで展望台へ、東京の全貌が見下される。国会議事堂や東京港が手にとるように見え、又、特急こだまがゆっくり目の下を通った。しばらく展望して下に降りる。5時宿へ帰る。9時半床につく、しかし、暑さと隣りでマージャンをやっているなかなか寝つかれず。

28日。今日の予定は中外浮間工場見学と竹早町のエーザイ製薬へ行くことである。9時50分赤羽駅集合、駅前からバスで15分位荒川ぞいに西へ。10時半、畑の中に建つ中外浮間工場へつく。前に連絡してあった為大変親切にもてなされる。工場長、課長のお話「当社は他社のように外国品をそのまま売るとか、よく売れる他社の薬を模倣したものを作らないで我が社独自の薬をつくっている。その為には研究部門の充実が必要なので今年の9月完成する予定で高田馬場に総合研究所をつくっており、そして人員を百人増員する予定であること。ここ浮間工場はグロンサンの錠剤と注射薬、殺虫剤パルサンをつくっている」。次に工場を

一巡した。グロンサン工場は廊下が中央にあり、左右はガラス張り、広く明るい室の中が廊下からすっかり見えるようになっている。薬という複雑なものをつくるには想像していた以上にオートメ化されていた。原料を大きな器に入れてまぜ合せて、それを錠剤にし、糖衣にした製品を包装するまでが流れ作業である。パルサン工場は、冬期に製造して夏期はそれを発送する事が仕事だそうだ。昼飯をこちそうになった後、丁度一っしょになった熊本大の学生と共に映画を見せてもらい、2時半浮間工場を辞した。

竹早町のエーザイ製薬へ行く。入社一年の社員の方から屋上で話しを聞く。エーザイでは社長が一般社員と同じ部屋で事務をとっているということとプロパー(セールスマン)が自動車で飛びまわっていること。又この一年間の苦しかったことやうれしかったことも話して下さった。

9時すぎ宿に帰り遅い夕飯をとる。

29日。9時半高田馬場集合。少し早くついたのでホームに立っていると予備校にでも行くのかノートを小脇にかかえた学生タイプの人が二三人かたまて話し合っていた。そういえば国電の中でも単語カードを暗記している人を見かけた。

駅から歩いて大正製薬へ行ったが以前の連絡が不十分だったので係の人には会えなかった。これから日本橋へもどり一昨日の返事をもらわねばならないのだが、僕は午後の汽車で帰る予定なので二年生の方に話したら、それでは二年の人二人だけでいこうと親切に言ってくれたので一年生は自由行動をとってもいいことになった。

上野へ出ると汽車まではまだ間があるので、友人二人と西洋美術館へ入る。まず目についたのはロダンの「考える人」写真などでなじみのものだが思ったより大きく、他の彫刻においてもそうだったが、力と生き生きとした運動が身近かに感じられ時間のたつのを忘れて見てまわった。絵画の方はルノアール・セザンヌ・ブラックなどの初期の作品が陳列され、ピカソの初期の作品の立体派でない裸婦を初めて見る事ができた。

おそい昼飯を駅前できり友と別れ、駅へ行く。ホームへ上ったらリックサックを背負った人やその他多くの人が既に長い列をつくっていた。なんとか坐ることが出来たら、一昨日、昨日の寝ぶそくと暑さの為、少しバテギミなのでウトウトしていたら、汽車は左手に競輪場を望みながら雨中を走っていた。夜、雨上がりの仙台へ着く。ネオンに輝く青葉通りのビルをながめ仙台もビルが多くなったものだと思いながら自家路へついた。

× × ×
× × ×



メロディーと思い出

大田黒喜代志

自分の幼い頃の事を思い出すきっかけとなる事柄は色々あるがメロディなどもそのうちの一つであろう。

そしてこのようなメロディによったり或いは臭いによったりといった、つまり感覚的刺激により引き起される回想の方が単に頭の中で（日記その他を見ながら）なされる非感覚的回想よりずっと鮮明であり生々しいものである。一なお臭いを引き合いに出したついでに言うならば、この刺激により触発される思い出と云うものは場合によっては一番すばらしいものであるらしい。一

ただ頭でなす回想の系統的かつ全般的であるのに比べると感覚器による回想はすこぶる断片的それも気まぐれ的と云うのか、時によると、とんでもないことを案外はっきりと思い出したりして我ながらあきれるといった事のあるのは大いに異った点である。

さて僕の場合、どだい歌などあまり好きでなかったのに今幼い頃を思い出す歌の数といったところで高が知れてはいる。そしてそのうちでも意識しておぼえた歌など極くわずかで国民学校（今の小学校）で習った国民学校唱歌その他小数の芸術歌謡、あとの大部分は、どうしても忘れ得ないような印象的事件と共にあるいはその歌が当時ちょっとした流行で知らず知らず頭にしみ込んでいたといった類いのものばかり。したがってその内容、種類なども雑多でくだらないものが多いが、一応これが誘発する思い出の方はこんなことにはあまり関係がないようだ。

例えば軍歌である。諸君はどう思うか知らないが、幼年～少年時代を戦争中に過した僕にとって軍歌の節は非常になつかしく想えるのである。と云うのは何も軍歌そのものが懐かしいのでなく、又あの戦争が懐かしいからでなく、それを歌うことにより幼年～少年時代の諸々のことをよりはっきりと思い出すからであろう。

橘中佐の歌、空の神兵、予か練の歌、又これは軍歌ではないが天長節、明治節、紀元二千六百年の歌、等皆各々思い出のある歌ばかりである。一まったくつまらん歌だが一そしてこれらのメロディを口ずさむ時、頭にうかぶ思い出と云うものはそれなしの場合などとは、比較にならぬほどの懐しさで、時々胸がいっぱいになってしまうことがある。

中でも僕にとって特に哀しく思へるのは「戦友」の歌でこのメロディを口にすれば、かならず今は亡き父の事を思い出す。それは、僕の五、六才の頃の事であったが、未だ乳のみ児であった弟を父は腕に抱き、しきりにあやしなからよくこの歌を唱っていたもので「……赤い夕日に照らされて……」あたりまで口づさめばそのあやしている場面ば

かりでなくその時父が着ていたユカタの柄まではっきりと思い出すことが出来る。（このことはどうしてだかわからない）つまり頭で思い出をさぐって行ったのではよほど特別の場合をのぞいて20年近い昔父の着ていたユカタの柄まで頭に思い浮べるとはまったく不可能である。にもかかわらずメロディを媒介として、つまり感覚的刺激による回想ではまったく馬鹿げた様なことまでも思い出せるのである。

又この戦友の歌によりいつもこの様に父の事を思い出すことが出来ると云うことは、つまり逆に云へばこの歌とその事件との関係がよほど深かったから、そしてその事件が印象深いものであってその時頭に刻み込まれた歌であったから今にいたるもなお忘れたい歌として記憶にあるのだとも考えられる。しかしいつでも印象深い事件により忘れ難い歌となったものは、今度はそれを口づさむことにより、そのもとの印象深かった事件を思い出すきっかけになるかと云うと、必ずしもそうはいかないようであり、時たまとんでもない組合せになっていることがある。例えば紀元二千六百年の歌など、非感覚的に頭でだけ考えてみれば、たしか印象深い事件と共におぼえたはずの歌であってその事件もわかっている。しかし今の歌を唱って頭に浮ぶのはなんと風呂屋の脱衣所で服を着ている場面だから何と考えてもおかしい話である。又「空の神兵」の場合など小学校の教室で（二年生の時）先生がオルガンをひきながら教えた歌だが、これにより思い出されるのが、学校からの帰り路を道草を食いながら、トボトボと歩いている。そして桜が咲いていると云った状景である。こう見て来るとこの様な歌をもとにして回想する場合、頭だけで非感覚的に「あの歌を唱ったころあのような事があった」と云う具合に想いを展開させるならとうぜん事件が中心になっている。しかしメロディをもとに感覚的な方法でやった場合には必ずしももとの印象深い事件を思い出さず、事件とまったく関係のない、つまらぬことを思い出す場合があると云うことはおもしろいことと思う。

医薬品・衛生材料
卸業
麻薬・笑気瓦斯等

丸 長 薬 局

仙台市元寺小路82

TEL (2) 2125
(3) 3386

ある怠け者の

日記から

船木清子

八月×日

高校時代の三羽鳥K・M・Fの三嬢、久方ぶりに三巨体会議。例の如くある喫茶にはいる。

三人モッサリ入口に立って店内を見まわす。超入満員。引き返すのもシャクだからといってドンドン店内へ入る。そして腰を落ちつけたのがなんと扇風機のおいてあるそのテーブル。四角のテーブルに三人坐れば一角があく。何かものたりないから扇風機を仲間に——というわけでもなく止むを得ぬ手段。

夜といえども日中の34,5度の高温は、あらゆるものを温めてしまっているから暑いことこの上ない。例にもれず三人の頭も最高に温められていたらしい。

三人共財布の中味にはトンと無頓着。ジッとメニューをにらみこむ。ゆうゆうたるものだ。三度目のお冷がコップに注がれた時、おもむろに注文。

目の前の扇風機は相変わらず活動する。精一杯の風をサービスしようとしている。が、ドッシリ構えた三巨体にガッチリ吸収されて、はたして店内の冷房効果は……。しかも二杯のお冷も体内にはいつているのだから注文品がはこばれた時はすっかり体も冷えている。

まずメニューの鑑賞から始まって、過去のこと、現況、そして未来のことへと話ははずむ、女三人集まると……の言われをはっきり証明。そして異性論。文学論へと。

話が文学へ移ったとき、頭にうかんだある友人の迷詩。

「珍アメノモマケズ」

雨ニモマケズ

風ニモマケズ

追試ニモ再追試ニモマケズ

丈夫ナカラダヲモチ

欲ハナク

決シテ怒ラズ

イツモシズカニ考エテイル

授業中ニ弁当ヲタベ

昼食時ニハアンパンヲタベ

御山ノ前ノ古ビタ校舎ニイテ

ネムタクナレバ

衛生室ニ行ッテ寝

オナカガスケバ

カッチェニタベル

勉強ニアキルト

山ニヌケダス

テスト中ワカラヌ友ガイレバ

親切ニオシエテヤリ

ヤスンダ友ガイレバ

自信ヲモチテ代返シテヤル

ミンナノタメニ勞ヲオシマズ

ホメラレモセズ

クニモサレヌ

ソウイフモノニ

ワタシハナリタイ。

時間はたつ。その間体を冷やしたり温めたり店の經理の面におおいに貢献？してそこを出た。足は次の喫茶へ向かっている。

思い出すこと

後藤正義

仙台の四年間をこれということもなく過ぎて来たが、時たま思い出しては気まづい気持ちにかられることがある。

それは、はっきり覚えていないが、多分数養二年の頃だったと思う。九月に入り、夏休みも残り少なくなったので、郷里から仙台にもどる車中でのことだった。

いつものとおり、東北本線の大宮駅から乗車した。平常は空いているのであるが、その日はなぜかかなり混んでいて、一つの車両を通り越し、ようやく空いている席を見つけたことができた。

そこにはおよそ一、二才の赤ん坊をつれたサラリーマン風の夫婦が席を占めていた。「仙台からバスに乗ると、ドンドン畑の中をつれてゆかれるので、ずいぶん辺りなところに来たと思って心細くなった。」という奥さんの話から推して東北に転任間もない様子だった。またこの夫婦は大分奥さんのポテンシャルが大きいようで主人が専ら赤ん坊をあやしたり、ミルクを与えたりしていた。一方奥さんはと見れば、手をかすでもなし、週刊誌を見たり、主人と話をしたりで、一向平気になっているのであった。

福島に近くなったころ、何やら菓子の折箱らしきものをとりだした。奥さんから僕にすすめるということになり、主人が僕に長崎屋のカステラ漫頭をしきりにすすめた。

主人のふがいなさや奥さんの傲慢さに、他人ゴトながら腹立たしい気持ちになっていったので、しきりにすすめる漫頭をガゼン僕はキョゼツした。

すすめること数回。ことわる数回。到底僕が受けとらないと知った夫婦は、気の毒なことをしたとも、あきれたともつかぬ顔を見あわせた。

一方、僕はと言えば、今までの腹立たしい気持はどこへやら、なんとも気まづい思いになって、視線のやりどころにこまった。一時間の仙台までの時間の長かったことは、今思い出すとおかしくなるくらいである。

それからというものは、どんな事情にせよ、一度遠慮して、すべて頂戴することにしている。

たばこ

飯塚義夫

僕がタバコを吸い始めたのは大学に入って間もない頃であつた。父も兄もタバコだけは酒とちがって栄養にもならぬ無駄な支出であつて火事の危険性もあるから絶対に飲むなというし、数多くの喫煙者も一度飲み始めたら相当の努力をしてもなかなか止められるものではないからと忠告してくれたし、僕自身もますますやせてしまうから、絶対に飲むまいと思つてゐた。しかし友達や、親戚の者がうまそうに煙をはいてのを見ると、何も意地を張つて一つの経験を試みずにくらすのも馬鹿げていると思ひ、ある日友人に勧められるままにいきなり一本飲んでみたところ、舌がにが様なからい様な刺激に會つて少々唾液が出ただけでうまいとは感じなかつた。だからこの時は、タバコは動くアクセサリで雰囲気の小道具でしかないと思つた。

ある夏の午後疲れてクラブ活動から帰つてきたとき家には誰も居なかつた。そのときふとタバコのことを思ひ出した。父が時折もらってくるタバコは茶だんすのお菓子のカンの中にいつも家族の者には吸われないうで、大工さんや植木屋さんがくれば、くれてやられる運命にあつた。僕はピースをとり出して自分の部屋へ持っていって火をつけた。そして一口二口と大きく吸ひこんだ。青い煙が湿り気を含んで白くなり、もやもやとあたり立ちこめて、やがて窓に消えて行つた。僕は目をつぶつた。すると深く深く地の底に沈んで行く様な感じに襲われ、僕がただそこに居るだけで頭の中に何もなくなつた。思はずごろりとねそべてじつとしていた。そしてこれがタバコの毒なのかと思つた。僕が公けにタバコを飲み始めたのは、やはり20才の誕生日の後であつた。母に誕生祝いにライターを買つてと云つたら、母は驚いた様な顔をしたがやがて、ふざけるのはやめなさいといつた。僕がタバコを吸う様にしつめた覚えはないと信じきつた様子だつた。しかし僕はもう成人であ

り誰にもタバコに関して干渉をうける弱みはないという一種の喜びをもつてその後タバコを吸いつづけている。

初夏の夕暮れにぬれ縁に腰をかけて、きらきら光る柿の若葉の間からもれるやわらかな光の中で、大きくみどりを吸ひこむと僕の前からいろいろのわずらわしさが一瞬消える。そして僕は僕と話し始めるのだ。

これがタバコの魔力であろう。

雑感

妻 神 惠 美 子

性善説と性悪説、どちらが正しいのであろうか。私は最近まで人間は絶対性善だ、いや性善であれと思つてゐた。しかし性悪説も又正しいと考えるようになった。まだ我々にとって耳新しい雅樹ちゃん殺しの本山のことを考えると……。あれだけの悪事をやり、生存か自殺かと街の話題をにぎわした彼は、おめおめと生きのび、63日間の逃走後つかまつても平然と、「私が殺したのではない。単なる共犯者だ。」と凶太く言い張つた。あんな世の親たちを悲しませる事をしながら反省もせず、本山メモなるものを書いて罪を逃れようとした。「悪を避けようという決意がつけられるのは多くの場合、最早避けることができないまでに悪の進行した後のことである。」というトーマス・ハーディの興味深い言葉があるが、なる程とうなずくことができる。本山が逃げのびていた頃の飯場の仲間が、「あれだけの罪深いことをしながら、酒も飲まずによく眠れたものだ。」と言つているそうだが、全く悪い奴ほどよく眠るのであろうか。全国の憤激をかけた本山の心の中には、捕えられた今何かうずまいてゐるであらうか。多分たいした罪の意識などはないであらう。このような悪辣なことをやり、なおかつ罪をのがれようとするのは性悪でなくてなんであらう。

× × ×

医薬品並衛生材料卸売業

合名会社

仙南堂薬店

代表社員 後藤千代

仙台市河原町32番地

(5)1106番(代表)

電話 (5)1107番

(5)1108番

分店 大学堂

仙台市木町通 192

電話(3)3978番

理化学機械器具

各種顕微鏡販売

西商會

仙台市靈屋丁79

電話(2)0395番

スケッチ

佐久間 慧子

秋めいて来た風が、すっと家の中を吹き抜けて誘う。スケッチブックを片手にふらっと家を出る。

丘とも山ともつかない所、地名も道も知らない。突然後に歌が起る。丘のかげから小さな子供達がぞろぞろ出て来る。細い一本道だったから、丘を一寸上って草の中で過ぎるのを待つ。先生らしい女の人が前掛をしてくるから、保育園の子供達かも知れない。先頭の一人は大声で歌をうたって勢いよく行進している。次の一人は半分位おしゃべり。後のぼろぼろ組、ぼんやり立ち止ったり何かを見つけていつまでもしゃがみ込んだりの子供達を、若い保母さんが羊飼いために追いついてる。可愛いだろうな。もしも私にもお手伝いさせて下さいませんか。駄目駄目、あなたはそうやって見て楽しむことしか出来ませんよ。30人程がやっと通り過ぎる。一寸離れて後からついて行く。湿地帯になる。所々の水のしみ出ている所を、二人の保母さんが懸命に渡してやっている。ほら、人が足りなくて子供達がばらばらになってる、あなたも手伝ったらどうです。——駄目——やはり駄目ですー一見てた方が楽しい。子供が一人、ずっと離れた後に立っている。近づいて行く。水があって渡れないでいる。たった五センチ程の溝もない水の流れ——不均整に描いた漫画の子の洋服のように、元は白だったらしいシャツと青味がかった灰色の半ズボンをだらりと着ている。小さな麦わら帽をかぶって…四つ位かな…坊や、こわい？足を出せばいいの。ほら、渡ってごらん。余り可愛くて、残忍な気持ちになる。もっとこの様子を見てたい。わざと子供のそばをわたって前に立つ。意地悪そうに笑って見ている自分を、げげんそうな顔もしないで見てる。坊や、渡してもらいたいんでしょう。手をお出しなさいな。水と前方と自分を代る々々見ている。坊や、どうする？水に入っちゃう？ここにいつまでも立ってる？だっこしてもらう？前方では誰も気づかないらしく、相変らず歌をうたってさっさと歩いている。だんだん遠くなる——子供は次第に落ち着きなく前方を見る。流石に可哀想になって思わず吹き出す。「はい、いらっしやい。」子供は救われたように身をのり出して両手を差し出す。その様子がたまらなく可愛い。だけどこの子——さっきから何て無表情な顔をしてるんだろう動いてるのは目だけ——まるで泣きも笑いも忘れてしまったみたい——それにこのやせ様ったら——隣の三つにもならない子よりまだ軽い——じっと見ている自分の目を避けるように前方にやっているこの目は、一体どんな事を考えるんだろう。欲も怒りも見栄もない、悲しみも楽しみすらもないようなこの目——もう一度水の向うへ下しても、この子は泣きもしないだろう。自分を憎らしいとも思わず、気をもんでも目だけが又内気そうに動くだ

けで、それは顔の筋肉に少しの動きも与えないだろう。無性に可哀想になって、肉のない腕をなでながら歩き出した途端、前方の子供の一人が振り向いた。そして何か大声でさげんで皆一斉に振り返った。保母さんがげげんそうな顔をして二三步戻った。しまった、この子は向うの子なんだっけ。あわてて子供を下す。一寸自分を見上げて、五・六歩行って振り返った。大丈夫よ、もう行けるでしょう。さよなら、坊や。笑ったつもりでうなづいて見せたら、目の奥に涙が湧いた。坊や、戻ってらっしやい、向うまでだっこしてってあげる。その時保母さんが手招きをしながら近づいて来た。それで子供も歩き出した。色のさめた黄緑色のゴムの靴を左右反対にはいている頼りない細い足一。

ふいと足の先をかえて、ないようである道を歩く。丘を一つ越えたところは水田になっている。丘まで這い上りそうにぎざぎざと作られている。しばらく行って思わず立ち止る。これは家ですよ、確かに住居です。中で人声がある——今は確か20世紀、人工衛星、ロケットが月の裏を見た、人間が作った水爆や何とか爆のいくつかで地球がこわれる、映画一本に何億もかける——この家、名づけて横穴式住居…横穴式住居、穴の家——原始時代、原子時代、一字違いが同居してる——入口には板を打ちつけたりごさをぶら下げたり。顔をそむけて足を早める。弱い弱い、何かも弱い——。

やたらに草をかきわけたり妨木をくぐり抜けたりしているうち、完全に道を失う。畑に出る。畑に道がついている。畑の道なのか、道の両脇に作った畑なのか、多少気にかかりながらも入って行く。道端に農夫が一人休んでいる。赤銅色にきつくしわがくい入っている。思わずあたりの作物を見まわした程、満足しきって眺めているその顔、静かな——。まずいまずい、大平天国のひやらひやらしたこっちの顔、向うは肥え桶を二つも持っているのに、こっちはスケッチブック一つ、麦わらとポロシャツとズボン、いかにも暇つぶしに遊んでいる様なこの恰好——まずい。なるべく顔を見ないで行こう。駄目だ、こっちを見た「あ、あの——この道、ずっと続いてますか。」そりや続いてますよ、こんなに堅い道なんですからね、何てこと聞くんです？「続いてっげんともね、どごさいぐの」「あの、ただその——」ああ、うまくない。急いで離れる。今にも怒なりつけそうだったのが、人なつっこく笑ってしわがよけい深くなった、その顔が、間の悪さを一層にする。木の間に隠れそうになった時、振り返った。後向きでさっきと同じように、全く静かにきせるをふかしている。すいませんでした／徒手体操のおじぎをていねいに一つする。そして二三步歩いた時、すぐそばの草の中で、かごを背負った女の人が二人、妙な顔をしてこっちを見ているのを目にした。その一何でもないんです——。わざとすまして、出来るだけゆっくりとその前を通った。暑い暑い八月の終りの、午後の炎天下である。

当り前の話

臨坂菊雄

時々思い出したようによく頭に浮かんでくる話がある。ずうっと前に読んだ随筆の一部であったが、その作者が誰であるかは忘れてしまったが、それは大体次の様なものであった。

私（作者）は電車の中で見るとはなしに向いの席の三人の親子連れに目をやった。まず父親の顔を見て子供の顔を見る。よく似ているなあと思う。それから、母親と子供の顔を見くらべて、これもよく似ていると思う。ところが最後に両親の顔を見くらべてみると、これはまた似ても似つかぬ顔をしている。そこで私は、はたと啓示に打たれた。かくも異なる二つの個性を融合統一して、新しき一個の個性を生みだし少しも不自然さを感じさせぬ造物主の偉大さ、ということに思い至った。

考査に思うこと

遠藤絃子

人間どこまで行っても、試験というのにつきまとわれるらしい。もう幼稚園時代から、試験は、いつも目前にくっついて離れない。こうしてなんとか大学には入れたが、これからの人生こそ、困難な試験を克服せねばならないし、又、姉弟を思う時、あの特殊な苦しみ（苦しみなんてどこるか返って楽しみ、希望のあるものだという人もあるだろうが、少なくとも私には、いやなものだ）に合わせずにはおけないことを、かわいそうだと、しっかりしろとも思う。

私はいつも試されているのだ。こんなことを考えると、何のために生きているのかわからなくなってしまう。

しかし、この試されることがなかったら、どうなることだろう。特に私のようななまけものは！

大学に入ってから初めての考査であった。ふり返ってみて全くお恥かしい成績である。勉強する時間も、余裕も十分あった。本を読む時間も。

しかしどうしても試験のための勉強ばかりでなく、全てのものに没頭出来ないのだ。生かじりのうぬぼれで、大ミエをきっているのだからあきれる。全くイジがなくなってしまったのだ。ただ他人から批判されたりすると、その場限りの負けず嫌いからのくやしきがあるのみなのだ。良い意味でのイジっぱりになりたい。どうしてこうも意志力に欠けているのかと熟慮する時、私はどうもこれから進むべき人生一般に関して、又この現実に対して、全く甘い、自

当時中学生の私はなる程と、非常に感心したものであった。妹にこの事を話したら、そんな当り前のことに感心しているほうが余程おかしいと笑われた。当り前の事だと言われてみれば何だかそうも思えてくるが、作者の感じ方が飛躍しすぎていてそれで当を得ている？からであろうか、やはり何かユーモラスなとぼけた味が感じられるのである。大学に入ってから比較的早い時間の電車で帰ったことがあった。大分空いていて新聞読みに疲れた私はふと向いの席に親子連れを発見し、かの文章をすばやく思い出した。それが本当であるかどうかおもむろに調査にかかった……それから数秒とたたぬうちに私はこみあげてくる笑いかみ殺すのに懸命であった。父親とそのアウフウベンされた子供の鼻の形、母親とそのアウフウベンされた口の形が似ているのも私の笑いに一層の拍車をかけた。私は下唇をかみしめたままうつむいていた…。何分位経ったであろうか、私には大変長い時間に感じられたのであるが、おそろおそろ顔をあげてみるとその人達の前には数人の乗客が吊皮につかまって立っていて再び顔をみないで居られるのは幸いであった。

分の力に不相応な程、生やさしいものだという考えが、私の奥底に根深い根をはっているのではないかと思う。

このことが、事実であるなら、危険なことである。これからの人生を、危険な不安定なものにしたくないのは、私ばかりではあるまいが、皆どのようにこの困難をきりぬけて行こうとしているのか。困難という語そのものに、抵抗を感ずるような、うらやましい人もいるかもしれない。

その場限りのテストなんか！と思うのが、間違っていたのかも知れない。自分でその場限りの知識に終らせなければよいのではないか。自分が、学問に熱中、真剣に打ち込むことが出来ないばかりに、試験の悪口ばかり吐いていたに違いない。しかし、結果的にみて、成績が悪ければ、それで一卷の終りなのだが、多い現在である時、それに順応させていく生活が、やはり必要なのではないか。そのためには、その成績に、優れるのでなければならぬ。勝つてみても、試験の反省、批判をするのに、おそくはあるまいと。この間の考査で得た結論は、このような真に小学生的なものだった。

◇ ◇ 宇野紀弘

人間は考える葦である。

パスカル（1623～1662）の「パンセ」の中に有名な言葉。「人間は葦にすぎない。自然界のうちでも一番弱いものである。しかしそれは考える葦である…」とある。葦をもっとも弱いものろいものに考えるのは、バイブルの中にみられるたとえ。パスカルの言葉の中には人間の偉大さを信じる強さがある。

歓 迎

眞 田 敬 子

昔から秋田でこじんまりと暮らしており、親戚の大部分も秋田に散在している事から、私の家には他県から客が来るなどという事はめったになかったのだが、この夏東京から兄が学生時代、下宿で世話になったおばさんが来ることになった。気の早いことに、そのニュースは四月ごろから手紙で知らされており、それ以来ずっと何かの折にふれて家族の話題にのぼっていたのだった。さて、いよいよ来秋の日取も近づいた。五日間の滞在を心から楽しんでもらえるようにと私達は夕食後、どんな風にしておばさんを歓迎すべきか話しあった。妹は「絶対父の実家のある横手に案内すべきだ」と主張した。私は私で十和田や八幡平へ案内してやる方が秋田に来てよかったと思われるのであろうと力説した。私は未だそれ等の名所をたずねた事がなかったのでこの機会に便乗しようという野心があった。妹にも、私程ろくつではないにしても、機会便乗という小さな欲望があった事が後でわかった。その欲望というのは馬に乗ることであった。——私が小学生の時だったが横手にある父の生家に、母と出かけた。父の生家は農業を営んでいるので、馬やぶたや綿羊等を飼っていた。私は馬にのせてもらってそのいなかでの生活を何日か楽しんだ記憶があり、それを妹におおげさに宣伝していたものだから、妹は馬に相当に魅惑されていたのだった。妹は馬に乗りた一心で、横手へおばさんを案内する事を主張してなかなかゆずらなかつた。私も涙ぐましい程、十和田、八幡平を見た人の感想文をひき出したりして奮闘した。そんな風だったので、どこに案内するかまともらぬうちにおばさんが来秋した。おばさんはリウマチで足をひきずるようにしてゆっくり歩いた。私はそれを見て、八幡平十和田は無理だと思った。歩くのに相当骨折っている様子だったし心臓も堅固ではないという事がおばさんの話でわかったからだ。

おばさんを囲んで、どこに行こうか等と話しあったが、おばさんはあまり歩かず家でんびり休みたいと答えた。東京永田町と言えば国会議事堂があり、首相官邸があり、今年そこは人の波がうずをまいていきどおった安保闘争の中心地であり一番うるさい町であった。その永田町に住み、そのさおぎの中で暮らしていたおばさんにとって、しんかんとした秋田はかっこうの休息所に思われたらしかつた。私はなんとなくその事を理解したので、妹と派手なけんか等はつつしみ家の中を静かにするよう努めた。一日中、家でお茶を飲み世間話をしてのんきにかまえて、三日間が過ぎされた。四日目に母がおばさんをヘルスセンターに案内するといひ出した。父は賛成した。私はどちらかといえど大賛成に近かつた。ヘルスセンターというのは温泉

で、演芸等も見せてはくれるものの、しろうとくさい赤ぬけしない出しものが多いし温泉はリウマチスにきくとっても果たして本当かも疑わしいからであった。しかしおばさんはリウマチスに効くと聞いただけでニコニコし、一も二もなく行く事を承諾した。留守をいつかつた私は、民謡等をぎゅうくつそうに座ってあくびをかみ殺して聞いているだろうおばさんと母を想像し、ニヤニヤして帰りを待った。予定より早く帰るだろうと思ったのだが、なかなか二人は帰って来なかつた。夕方になって夕食の仕たくが終った頃二人はこのこの帰って来た。二人共実にうれしそうだったのは以外だった。おばさんは足が軽くなったようだと言って歩いて見せたが、私には以前のようにひきずるように重たげな足の運びだと思われた。だが私は喜んでもらえてうれしかつた。しろうと臭い演芸も大半が民謡で占められていたらしく、それが東京人には実に訴える所があったらしい。さかんにほめていた。その翌日夜行でおばさんは帰って行った。おばさんの秋田の思い出はヘルスセンターだけだったろうと思う。だがおばさんはそれで満足しひどく喜んでた。夏休みの客接待は、このようにして母の意見がとり入れられ成功した。人を歓迎する時は私利私欲を去らなければだめだと妹と後でしみじみ語りあった。



コ ン ト

小 山 秀 機

K君は仙台の東はずれに下宿している。そこから数百メートルほど行くと、もはや黄金の浪打つ広大な仙台平野である。ここには都会らしからぬ都会仙台的の……。

彼の憩の一つは夕方独りこの仙台平野を逍遙することである。一直線に東にのびる田んぼ道を時には大声で歌を歌い、時には物思いに沈んで、時には何かぶつぶつ呟きながら歩いて行く。彼の前には何も束縛するものはない。かつては萩の花咲く宮城野が海岸まで続いているのだ。地平線がもやの中に消えている。

ふと彼は故郷のことを思い出す。彼の故郷は関西の方である。四方が山に囲まれた草深い町にも夕暗がせまる頃であろう。「たそがれには山の端窓に映りし時……」、ふと彼は我に帰ってもと来た道を引返す。向山の方角は夕やけでまっかだ。

時 計 の 御 用 は

三 原 本 店

仙 台 大 町

デ ン ワ (3) 2 9 2 3 ・ (2) 0 3 8 5

石 田 とし子
 ××××××××××

岩 波 黄 葵

どうして我々はこうも飽きずに真実を求めたがるのか。又どうしてあかも虚偽が好きなのか不思議である。真実なるものが果して我々を幸福にし得るかどうかは、なほだ疑問でもある。幸福は虚偽の中に於てのみ存在するのも知れないし、真実を求めるのが必ずしも不幸であるとも云えない。幸福と云う言葉。我々皆がそれを夢見るが何かしら気まりわるげにためらいつつこの言葉を発する。さもなければ意地悪く否定的に対して。真実だとか虚偽だとか、幸福だとか不幸だとか何時まで小心翼翼と云い続けるのだろう。真実を求める過程に於ては幸、不幸と云うものは既に消失しているのだ。

どうして人々は是が非でも人生に何か意味を持たせたいと願う使命感におのれを義務づけようとするのか。意味なんか求めたって始まらない。たとえどんなに立派な口実をつけてみたところで結局は自己満足に過ぎない。一人一人の能力や気まぐれにまかせて人生の与えてくれる色さまざま要素を集めて積木をしているに過ぎない。その積木が美しく壊れなかったらそれ以上何を求めることがあるのか。

五月のある日の出来事

岩 淵 陽 子

5月24日の朝、けたたましいサイレンと半鐘の音、5分しても止まない。ねぼうの私とてこれじゃ起きざるをえない。10分してもなり止まぬ。何事がおきたのかと外に出て見ると「津波だ。」という声。しかし生まれてこのかた津波など経験したことがないのでピンとこない。そのうち神社のとりのあたりがざわめき出した。ヤジウマ根性かられてあたりかまわず走り出した。どす黒い海水、なんともいえない悪臭、水面にただよっている異様な物、それに家の中に2mは入っている。「津波、津波、これが津波か」あとは唖然とその場に立ちすくんだ。まもなく海水はあらゆるものを引きさらって引いて行った。あとはどす黒いどろが厚くのこされているだけだった。その後何回も波はおしよせて来た。海岸一帯は目もあてられぬ状態に変わった。いつもははなやかな遊覧船乗場も船は陸にうちあげられみかげもない。市内は大部打撃をこうむったが、三ヶ月たった今日この頃はだいぶ打撃から回復してきたようである。この事件を通じて大自然のおそろしさ、人間の自然支配のいたらなさをつつく身に感じた。

「仙台」次は仙台一と告げる駅におり立って私が最初に仙台に足を踏み入れたのは、今年の三月、つまり私の受験の時だったのだ。五番線まである駅の規模としては、中位いに属する仙台駅を出て、私は先ず眼前にずっとのびている広い道路に驚いた。なぜなら私はこんな広い道路を有する町に住んだ事がなかったから。二台も三台もバスが並んで走っているこんな眺めは、私には本当に驚きものであったのである。けれど街路が広いと言う事は又、何か索寞とした感じをも、持たせるものであることを知って、にわかには、淋しい気になったのを覚えている。受験が終った後、五日の夜だったか、散歩をしていた時、ふっと口に出たのが「仙台ってなんと暗い夜なんでしょう」と言う事だった。「電力が欠乏しているの？この町は」と聞く私に、傍の友達は「きつと仙台は道路が広いせいで暗く感じられるのですよ」と言訳を言って「私の住んでいる町は仙台と比べものにならない位い道が狭いから、夜だって、さ程ないネオンが有る程に、感じられるんですからね」と私も思っている様な事を言った。私の住んでいる町ともう一つ異なる光景は、丸光の前や私が毎朝バスに乗るあたりにあるいつもふんだんに品を揃えた果物屋の店頭である。皿からこぼれる程のパナナや秋であれば、ブドウは言うに及ばず、カキ、クリ、ナシ等、又イチゴの季節になれば、それをたたき売りにしている有様は、全く果物不足の町に育った私は異様な物を見る感じなのだ。仙台に来て、春こんなにイチゴミルクを食べたのは生れて初めてだし、ブドウをいやと言う程食べたのも初めてだった。又デパートが三つもあるのに驚いた。駅前から、丸光のネオンを見る時、私は仙台って本当に都会なんだと思う。

若 林 薬 局

本店 荒町小学校向ひ
 TEL ③ 3233
 支店 東一広瀬通り角
 TEL ③ 6035

その日その日の努力

菅原朝子

どうにもならないと知っていても、過去の失敗が諦めきれないのが人間の常である。この失敗が精神的、物質的なものであった場合いずれにしても、私たちは心が乱れて次の仕事が手につかないことがある。そして只悶々と時間をすごしてしまう。しかしよく考えて見るとこれ程愚かなことはないのだ。私たちに最も重要なことは、昨日のこともなければ、明日のこともない。その日その日が最も大切なのである。計算の出来ない速度で現在は刻々と過去のものとなりつつある。時間がすぎてゆくのか、私達が時間の側を通りすぎるのか、そのどちらにしても、その日を楽しく生きて行くことに人生の意義があるのだ。これをもっと押広げると、私達は現代をいかによくするかということだけを考えればいいことになる。過ぎた時代の批評をしても、それは現代の生活の役にたたない。未来の為に理想をかかげるのは良いが、未来のことは人間の力ではどうにもならぬものである。なぜなら来年は私達のものかどうか、誰も保証してくれるものはないのだから。

書くということ

海熱駿雄

アミコスの編集委員から何か書くように言われてから、もう二ヶ月にもなる。何を書いたらいいのか全たく困ってしまった。考えて見れば書くということは高校以来実に三年振りである。中学の時にしても夏休み、冬休みの時の宿題で作文を書いた位である。我ながらいかに書くということが疎かになっていたか驚いたわけである。これでは書けないのは当然である。それに上手に書いてやろうという気がある。書けない奴が上手に書こうなんて全く虫のいい話だ。よく考えて見れば僕の書けないということは、全然書くこと、文章をつづる能力がないのか、上手に書けないのかという問題になってみると、上手に書けないから書くことがいやなようだ。くだらない虚栄心だ。しかしそればかりではないようだ。それよりも書き慣れていないということが僕の場合は強く左右しているようだ。まづもって書き慣れるには上手に書こうということは抜きにして、自分の考えていること感じていることを素直に書けるようにしなくてはならない。素直に書くといっても日頃から観察力を養ったり、思索したりしていなくてはならないだろう。考えたこと、感じたことをすぐにその日のうちにでもメモにとっておくようにしたら、何か書く時に良い材料となるだろう。日記を書くのが最も良いように思われる。僕は今度こそ日記を書き続けようとして中学以来何度考えたことだろう。口で言うのは容易だがいざ実行という点になるとうま

くない。これを機会に又途絶えていた日記を書こうと思う。努力すること以外に道はないようだ。

書くのをいやがったりしては、せつかくのアミコスの集が遅れたり、内容が貧弱になるのが残念だと思ったので上の様なことを書いて見た。

朝の風景

川原しげ子

私は早朝が好きだ。清少納言のように春とはかぎらずに四季を通してである。こんな事は滅多にないが、なにかの調子で朝早く目が覚めた時、私の部屋の窓がしだいにうつくしいライトブルーに変わっていくのを見ているのもいいが、下宿のまわりを雀のコーラスを聞きながら歩きまわると又格別の味わいがある。これからだんだん寒くなると億劫になりでかけないけれども、六月頃など夜露にぬれた草の葉が朝日をうけてきらきら光っているところを、まだはっきりしないねぼけ眼をこすりながらあちこちを見渡し歩いている時、急にほととぎすの声などするとたちまちに目もさえてしまう。夜に鳴く鳥の声は気持が悪いがほととぎすの声はいい。ちょっと下っていくとたちまち木々の間を朝日がもれている光景にぶっかる。その木が針葉樹なのでこちら側からみればますます暗く大きな木のように見える。それに背をむけ左手に去年の台風でずいぶんまばらになった東照宮の林を見て野原の中の細い道をずっと行くと竹やぶと、名前はわからないが大きな潤葉樹の林がある。今はもう葉も黄色になり散りはじめている。夏休み以前とは今は違って竹やぶはなくなり、畑も道もなくなりその辺一帯は石が敷かれ、営林署管理の材木置場となっている。ここは12月頃になると畑の中の雑草もかれ、一面にうす黄色のかやのような草が立枯れになっていて、その後の大きな葉の散った林と調和してなんとなく「挽歌」のイメージにぴったりしうだった景色はもう見られない。林は残っていても石ころとでは感じがでない。朝にはこの辺までは来ない。たいがいは夕方に来る。近くに積んである木の土にすわると少し寒い位の風が髪にさらさらと吹いた。なにか詩でもとこんな場所に才能がある人がいたら詩を作るだろうけれども。私にはできない。東の空がまえよりもずっと明るくなり太陽もみえはじめた。そうだ山の陰からのぼる太陽を歌った詩があったけ。与謝野晶子だったかしら。「不死鳥」という題だったかもしれない。どのようなのだったかな、最後はたしかに「フェニックスのはばたきだ。太陽が現われる。」というのだったけれど。時計をみたら7時5分だった。太陽は高くのぼった。帰ることにした。途中でまな板のトントンなる音。人の話声。豆ふや納豆をうる子供の声がきこえてくる。今が一日のうちで一番活気にみちた時だ。だから私が好きなかもしれない。

大学に入って

江本 昭子

入学して以来初めての試験をうけて大学というものが少し理解出来たように思った。ただ「大学に入りたい」と思って入学した私、その裏にはいくら男女平等と言っても平等視しない社会、心理学の勉強中に友達の切り抜きに見た、「日本の女性は愛されることがあっても、尊敬されることはない」という言葉の通りの日本の女性に少しでも抵抗し男子同様立派な人間として社会に出ようという気持や、経済的独立をめざして何か技術的なものを身につけようという気持はあったかもしれない。しかし見しらぬ土地に田舎から出て来て、なれない環境で周囲から引き廻されどうしであった。未知の物に対する不安と、大学に入ったからには何か有効な前進をしたいと思って「大学とはどんなことをすれば良いのでしょうか。」と問えば、先輩は口をそろえて「医学部だろう。単位さえとればいいんだ。遊べ！遊べ！」という。又安保反対を入学式の当時から聞かされ、「安保反対をやらなければ、学生ではない」と受けとれる

ような言葉に左右され、安保反対のデモにまきこまれた。こんな私は真の大学生活のあり方、意義、大学の目的など何もかもわすれてしまった。そして初の期末テストもダブルとかドッペラないとか、つくづく学問の真理などわからなくなる。「ほんとうに私は何のために大学に入ったのだろうか」と夏休中考えたことを又も考えた。いろいろ理屈を並べたてても『経済的に豊かになり、人間らしい生活をするため』などという『衣食足って礼節を知る』に似た結論に達する。最大の目的は真理の追究と独創的な研究だと言えないのにはなさけない。でも「この度の東北大学新聞に就職の状況が出ているぞ！月給も書いてあった。」という言葉を生協で耳にして、この目的も必ずしも卑しむべきことではない。この目的を卑しむのは精神至上主義を尊び物的なものを軽蔑する考えから生れるのだなども思った。今のところ特殊な技術を身につけることを終局の目的としか考えられない私は、この四年間に人間的に成長してやろうと思っている。出来る範囲で落ちるとか落ちないとかいうような間に合せの勉強でなく、真の勉強をしたいと思っている。むずかしいが、真の意味での知性豊かな教養ある人に一步でも近づくことを、大学生活の目標にしようと思っている。

雑感

諸井 黎明

外国の週刊紙を見ていたら30mの高さから足にひもをくっつけて地面に落下する絵ののっていた。お気付の方もあろう、最後の楽園の一コマである。

南太平洋のちっちゃな島での成人式の儀式と記憶している。あの映画では民族のおどりが良く現れていた。日本人には一寸まねの出来ぬはげしい奴で、そうかと言って「ソロモンと三人の女王」に出てくるように官能的ではなくて、はなはだ健康的で好感がもてた。いつだったかこれ又映画で、メキシコを中心とした踊りを見た。メキシコの方は、「強烈さ」というものを感じさせはしなかったがみんなと一緒に楽しく踊るといふ風を感じられた。後者の特徴は成人に達した人は全員本能的とでも言うが如く踊りまわっていた。唯一の娯楽はこれなんだろうが。夏は家からこれ又30m位はなれてる所に盆踊の会場が右と左に二つ出来(例年の事だが)10日間程ヘンテコなレコードばかり聞かされた。首をつっこんで見ると見る人の方が多し位、さしづめ出た所で「なんだあのババア、いい年して口紅などして。」などと思われるからか。上記の映画では全然そんな事がない。

文化の未発達な地域程踊りのテンポも早く、かつ全員が心から喜びにひたってるように思う。高度な文明になる

と、人間は他人を意識しすぎるのだろうか。それとも日本人だけの性質か。しかし次のような当を得ている言葉がある。「踊るアホウに見るアホウどうセアホウなら……。」しかしこういう言葉を打ち出す程日本人は引き込み思案なのだと思う。英国人は歩きながら考へ、仏人は考へたあとで走り出すそうだが、日本人はさしづめきよきよあたりを見渡して走り、走った後で何もしないという方か。話は変な方へずれたが、盆踊の太鼓の聞える机上で以上の事をつらつら感じた。

株式会社徳田製作所
倉田高級耐火物製造所 } 代理店
五福電機工業株式会社
シリコニット高熱工業株式会社

柴田化学器械工業株式会社特約店

理化学器械・磁製耐火物及
石英製品・分析用硝子器具

有限 星理化学器械店
会社

仙台市肴町73番地

電話 (2) 6822番
(3) 4523番

薬学科一年の経過(昭和35年度)

4月 小澤光(薬品作用学), 竹本常松(生物薬品化学) 両教授着任
 福田英臣(薬品作用学), ヒキノヒロシ(生物薬品化学) 両助教授着任
 入学式(新入生男子12名, 女子24名)
 2年指導教官 鈴木 博(荒巻杉添沢1ノ17)
 1年指導教官 高橋和年(荒巻大石山6ノ1)

3~6日 第13回日本薬学会(於東京)
 29日 新入生歓迎会(於富沢, 出席多数)

11月6日 医学部囲碁大会優勝(4年)

12.13 大学祭初参加(3年)
 14日

テーマ: 血圧降下剤・動物実験

血圧の機溝及び現在最も有効な血圧降下剤であるレセルピンの抽出法, 更に合成の全過程と関連した有機化学反応装置の解説, 現行薬品の有効的使用法の説明及びその映画。動物実験は犬, ウサギ, ガマを使用し種々の薬品の作用を公開

12月 あみこす 4号発刊

5月 高野誠一助教授(薬品製造学) ニューメキシコ大学に出張

6月 海上運動会 フィックス 1位(学部男子), 同1位(学部女子), 同2位(教養部女子)

7月1日 4年生特別実習に入る。

4~9日 4年生東京・大阪方面へ工場見学旅行(三共, 中外, 朝日ビール, 資生堂, 京大薬局, 日本新薬, 武田, 田辺, 台糖, ビオフェルミン)

9月 運動具購入(薬友会——野球, 卓球, 庭球用具等)

10月13日 医学部運動会総合5位, 仮装行列9位(3年), 10位(4年), (マラソンに2, 5, 6, 7, 8, 9位を占める)

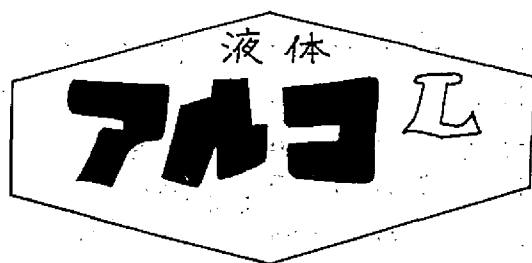
16日 教養部運動会総合6位
 山中宏助教授(薬化学) ニューヨーク州立大学より帰国

雑誌題名と表紙

「あみこす」とはどういう意味ですか? 何語ですか? とよくきかれますが, 「あみこす」はラテン語で友達とか味方を意味します。これから派生したフランス語の Ami はよく御存知でしょう。

表紙は今号は写真を使ってみました。印画紙の上にグラフ用紙をきり抜いた天秤の形と色のちがったセロファンで薬包紙をつくってのせ直接光線をあてたものです。水柿君と夜11時までかかって10枚ほど作った中からえらんでもらいました。(村田)

ヤサイ 洗いに
 食器 洗いに



シエルの貝印灯油
 料理と暖房用の理想燃料
 ミンク石油ストーブ

仙台市東二番下一二〇

株式
 会社



三浦善作商店

電話(2)5934・(2)8959

昭和 35 年度職員学生名簿

42 ページ～47 ページ



○「あみこす」4号が出来た。終始協力的だった皆さんに感謝したい。戦後15年岩戸景気が地方都市にも伸びて来て仙台もビルラッシュである。ビ

ジネスセンターとしてスマートになったが、ビル荒しもふえたそうである。薬学の校舎も立派に出来たが、こう体裁がよくなると管理も大変、ヘイを作ってセパードでも飼ったらどうだろう。物事をコツコツ作り上げていくのは大変だが楽しいものである。後輩諸君が「あみこす」を育てあげていくのを期待したい。(村田・高石)

○実際に編集の仕事にとりかかったのは試験後になってしまったので、今年は始めから終わりまで期間に追われようだった。そのため、時には授業を自己休講してまで、原稿集めに走りまわったりしたものだが、多数の援助によりここまでこぎつけられたことは何よりだった。

本号では、創設4年目を迎え名実ともに充実した薬学科に焦点を合わせて見た。また第一期卒業生の出る来春から、薬友会は同窓会としての薬友会に発展するわけであるから、「あみこす」にも職員、学生の名簿を付し、同窓会機関誌的性格を持たせる手始めとしたが、今後これも続けて行ってもらいたいと思う。(目黒)

○「人の作った文化を享受することがいかに楽なことであるかをしみじみ感じた」とは、ある学生雑誌の編集委員のことばです。そう言えるだけの仕事をしていたら、私も今どんなにか満足な気持でペンをとれることか。でも「あみこす」が少しでも良かれと願う気持は誰にも劣らないつもりです。今後「あみこす」がますますすばらしい雑誌となることを祈って止みません。(佐藤)

○まず一年諸兄妹に、折角出してくれた原稿を、編集の都合上一部割愛せざるを得なかったことをおわびいたします。そのかわり名簿が載ったことでお許し下さい。この

「あみこす」は冬休み前に、皆さんに届くと思いますが、休み前か直後に、これを読んだ皆さんの意思を聞きたいと思っています。充分に読んでおいてもらうことを希望します。(乗原)

○広告集めにクラスの皆さんに手分けして行っていただきましたが、残りの分は私が行かなければなりませんでした。店名はおろか町名さえ初めて知ったのです。それでもようやく探しあてた時は嬉しかったものです。それ以来薬局を見ると看板を見上げる妙な癖ができました。編集については何も知らず、私はあとについて行くだけでしたが、熱心に努力された委員の方に深く感謝致します。(菅原)

○編集後記を書くに当り自己を省りみまして、他の委員の方々、並びに「あみこす」編集に協力なされた方々の御奮闘、御努力に深い敬意を表します。又、広告のことで製薬会社を見るという得難い経験をもたしていただいたことに感謝しております。最後に「あみこす」が今後ますます発展することを願って筆を置きます。(川又)

編集委員

- 4年 高石勝夫 村田正弘
- 3年 岡野 丘
- 2年 江田紘子 川又 健 佐藤洋子 嶺岸謙一郎
目黒寛司
- 1年 熱海駿雄 川原志げ子 栗原純夫 菅原浩子

1960年12月15日 印刷
1960年12月20日 発行

あみこす 4号

発行者 東北大学薬友会
編集責任者 目黒寛司
印刷所 KK針生印刷製本所
仙台市花京院通39
電話(2)3388(2)6644

理化学器械・ガラス器具及量器
化学磁器・各種耐化物
実験諸材料・各種器械製作修理

大島商會

1号は本館
2,3号は仙台市名簿
4号は取組名簿

仙台市荒町144

電話 (2)2732・(3)6897

御通学はスマートな背広で

高級な御仕立 お誂背広
価格手頃な イージーオーダー
24時間で仕上げる ハーフメード
新しいデザインの新製既製服

学生様一割引 卒業生様記念品進呈

東北大学指定

大丸服装店

仙台・東一(東北大正門前) TEL(3)3665

肝臓を強くして...

全身に活力をつける!

新ビタミン配合 総合強肝活力剤

ゴルフ

チオクト酸、オロト酸、パントテン酸、HCT、DADAなど新肝臓薬5種にこれと協力する6種成分を配合。

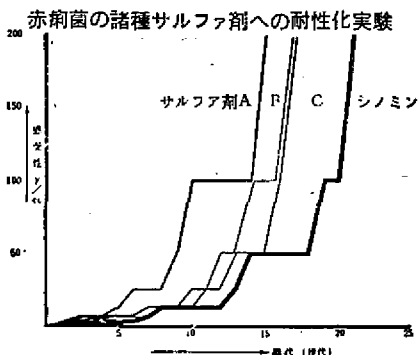
・疲労・体力増強・二日酔・肌あれに
30錠 350円 100錠 950円/三共株式会社



18

LONG ACTING FIRST CHOICE SULFA!

健保適用



シノミンは耐性化の生じにくいサルファ剤



シノノキ 塩野義製薬株式会社

新持続性サルファ剤

シノミン

(スルフィソメゾール)

サルファ剤は一般感染症の治療に First choice Drugs ですが、とくにシノミンは、抗菌力が強く副作用が少ないばかりか、耐性が極めて生じにくいので、First choice Sulfa と云えます。朝夕2回の投与ですむので便利です。 末 100g・500g・1kg; 0.25g錠



疲労回復

コンディションの調整
スタミナの増強に

アリナミンは今までのB₁剤では望めない優れた特長をもっています。例えばのむだけ殆ど全部吸収され長く体内にとどまって強力に作用します。最近、スポーツマンの常備薬として皆様に広くご愛用を頂いております。疲れたときは勿論、常用すればコンディションの調整やスタミナ増強にも役立ちます。

腰痛・筋肉痛・便秘・食欲不振にも

★新型ビタミンB₁剤

アリナミン

糖衣錠

三〇錠(一〇〇錠) 一〇〇錠(五五〇錠) 三〇〇錠(一、五〇〇錠)



武田薬品工業株式会社
大阪市道修町 (東京・札幌・福岡)

● 社会保険適用



Fe

吸収がよく…… 胃腸障害がない

- 水に溶け易いグルクロン酸第一鉄を成分とし、内服して二価の鉄として安定なため、よく吸収されます。
- 従来の経口用鉄剤にくらべて、短期間に、血清鉄や赤血球数、血色素量などを増加させます。
- 毒性は少く、長期連用或いは大量投与しても、胃腸や肝臓を害しません。

〔適応症〕 本態性低色素性貧血、胃液欠乏性貧血、慢性出血性貧血、鉤虫性貧血、胃切除後の低色素性貧血、妊娠中の低色素性貧血、出血性諸貧血など。

クロンサン鉄錠

五〇錠・一〇〇錠・五〇〇錠・一〇〇〇錠

中外製薬株式会社
東京都中央区日本橋本町三丁目三番地

